

和仏法律学校講義録

下村, 宏 / 若槻, 禮次郎 / 金井, 延 / 杉本, 貞治郎 / 富谷, 銚太郎

(出版者 / Publisher)

和仏法律學校

(巻 / Volume)

2-15

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

54

(発行年 / Year)

1900-09-10

和佛法律學校

講義錄

第 貳 部

第 拾 五 號

商 法 會 社 (自五〇七) 法學士杉本貞治郎

商 法 手 形 (自二二五) 法學博士富谷銚太郎

經 濟 學 總 論 (自二一三) 法學博士金 井 延

財 政 學 (自二六五) 法學士下 村 宏

現 行 租 稅 法 論 (自一四九) 法學士若槻禮次郎



法學志林

第十一號 九月五日發行

每月一回發行
定價一冊金拾錢郵稅一冊金壹錢十冊前金壹圓郵
稅不要
校友生徒校外生ニ限リ
特價一冊八錢郵稅壹錢十冊前金六拾錢郵稅不要

◎志林
◎論議 法學士棟居喜九馬○豫審辯護論(古賀氏ノ所見ニ就テ辯護士信岡雄四郎○臺灣法院ヲ論ス) 法學士鈴木宗言

◎纂論 假執行ニ關スル諸國ノ法制ヲ論ス(續) 校友木村誠次郎

◎大審院ノ法理 若勞坊

◎解疑 支那拒絕會作成立ノ場合ニ於ケル債權請求權ノ時効 法學博士梅謙次郎

◎寄書 民法第七百四十九條第二項ニ付テ、校友山本徳太郎○戰爭ト國際法トノ關係ヲ論ス、校友珀石江人

◎雜報 學出入ト著書人ノ義務○東京辯護士常議員會ノ廣告ニ關スル懲戒問題○船政條約ノ效力○臺灣租借○飯田支部判例檢事ノ法學研究○何ヲ任テ申シタコトハアリヤメン○法律ノ禁代廢止

◎記事 ○校友異動 ○校友死亡

發行所 東京市麴町區富士見町六丁目 司法省指定 和佛法律學校 (電話番町二七四)

分方法ヲ定メタル場合ニ在リテハ此保存期間ハ本店ノ所在地ニ於テ解散ノ登記ヲ爲シタル後十年間トシ其他ノ場合即チ清算手續ニ依ル場合ニ在リテハ清算終了ノ登記ヲ爲シタル後十年間トセリ又保存者ハ社員ノ過半数ヲ以テ之ヲ定ムルナリ

又社員ハ第六十三條ノ規定ニ依リ會社財産ヲ以テ債務ヲ完済スルコト能ハサル場合ニハ連帶シテ清算ノ責任ニ任ス此責任ハ清算手續ニ依リ殘餘財産ノ分配ヲ爲シタル後ニ至リテ發見セラレルコトアリ例ヘハ實際ハ會社財産カ債務ヲ辨済スルニ足ラサリシヲ清算人カ知ラスシテ或債權者ニ辨済ヲ爲サスシテ計算ヲ結了シ殘餘財産ヲ分配セルニ後日ニ至リ債權者カ請求スルカ如キ場合アルヘシ此ノ如キ場合ニハ社員ハ往往善意ニテ分配ヲ受クルナリ故ニ此責任ニ相當ノ消滅期間ヲ與フルヲ要スルナリ第三百三條ハ之ヲ解散ノ登記後五年トセリ第三百三條第二項ハ未タ分配セサル殘餘財産アルトキハ會社ノ債權者ハ解散ノ登記後五年ヲ經過シタル後ト雖モ之ニ對シテ辨済ヲ請求スルコトヲ得ルコトヲ規定セリ然レトモ此請求ハ第六十三條ノ責任ニ關スルモノニ非ス會社財産

090
1900
2-1-15

分方法ヲ定メタル場合ニ在リテハ此保存期間ハ本店ノ所在地ニ於テ解散ノ登記ヲ爲シタル後十年間トシ其他ノ場合即チ清算手續ニ依ル場合ニ在リテハ清算終了ノ登記ヲ爲シタル後十年間トセリ又保存者ハ社員ノ過半数ヲ以テ之ヲ定ムルナリ

又社員ハ第六十三條ノ規定ニ依リ會社財産ヲ以テ債務ヲ完済スルコト能ハサル場合ニハ連帶シテ辨済ノ責ニ任ス此責任ハ清算手續ニ依リ殘餘財産ノ分配ヲ爲シタル後ニ至リテ發見セラレルコトアリ例ヘハ實際ハ會社財産カ債務ヲ辨済スルニ足ラザリシテ清算人カ知ラスシテ或債權者ニ辨済ヲ爲サスシテ計算ヲ結了シ殘餘財産ヲ分配セルニ後日ニ至リ債權者カ請求スルカ如キ場合アルヘシ此ノ如キ場合ニハ社員ハ往々善意ニテ分配ヲ受クルナリ故ニ此責任ニ相當ノ消滅期間ヲ與フルヲ要スルナリ第百三條ハ之ヲ解散ノ登記後五年トセリ第百三條第二項ハ未タ分配セサル殘餘財産アルトキハ會社ノ債權者ハ解散ノ登記後五年ヲ經過シタル後ト雖モ之ニ對シテ辨済ヲ請求スルコトヲ得ルコトヲ規定セリ然レトモ此請求ハ第六十三條ノ責任ニ關スルモノニ非ス會社財産

ニ對シテ辨濟ヲ求ムルモノナリ

第三章 合資會社

合資會社ハ有限責任社員ト無限責任社員トヲ以テ之ヲ組織ス(第一〇四條是レ)實ニ合資會社ノ特徵ナリ合資會社カ合名會社ト異ナル所ハ單ニ此有限責任社員アルカ爲メナリ此有限責任社員ト無限責任社員トノ關係ハ恰モ彼ノ匿名組合ニ於ケル營業主ト匿名者トノ關係ノ如ク有限責任社員ハ單ニ一定ノ出資ヲ爲スニ止マリ其出資以外ニ責任ヲ負ハサルニ反シテ無限責任社員ハ其全財産ヲ以テ會社債務ニ付キ責任ヲ負フナリ而シテ此無限責任社員アルカ故モ其團結ノ基礎ハ亦各人相互間ノ信用ヲ離ルルコト能ハス是ヲ以テ其社員モ亦甚タ多カラス故ニ大體合名會社ト同一ノ規定ニ從ハシムヘキ點多シ是レ第百五條ニ於テ本章ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外合名會社ニ關スル規定ヲ準用ス(規定セタル所以ナリ舊商法ニ於テモ其第百三十七條ニ於テ之ト同様ノ規定アリシカ其組織ニ關シテハ甚タ奇異ナル主義ヲ採リタリ即チ全ク有限責任社員ノ

ミヲ以テ組織スル合資會社ヲ認メ隨テ其社員ノ數モ甚タ多數ナル場合ヲ想像シテ總會ニ關スル規定等ヲ設ケタリ故ニ商法施行法第三十八條ヲ以テ舊商法ニ依リ設立シタル會社ニハ商法施行後ト雖モ舊商法ノ規定ヲ適用シ又同第四十條ニ於テ舊商法ニ定メタル合資會社ハ組織ヲ變更シテ新商法ノ合資會社株式會社又ハ株式合資會社ト爲スコトヲ許セリ

合資會社ニハ大體合名會社ノ規定ヲ準用スルコトヲ規定セルヲ以テ本章ニハ單ニ合資會社ニ特別ナル事項ヲノミ規定セリ

第五十條及ヒ第五十一條ニ於テ合名會社ノ定款事項及ヒ登記事項ヲ規定セリ各社員ノ氏名住所モ亦此事項ノ一ナリ而シテ合資會社ノ社員ハ有限責任ヲ負フ者ト無限責任ヲ負フ者トノ二種アルヲ以テ何ノ誰カ無限責任ヲ負ヒ又何ノ誰カ有限責任ヲ負フコトヲモ定款ニ記載セシムルナリ(第一〇六條隨テ又之ヲ登記セシムルナリ(第一〇七條)

合名會社社員ハ民法ノ組合員ノ如ク勞務ヲ以テ出資ト爲スコトヲ得是レ組合員又ハ合名會社社員ハ其全財産ヲ以テ責任ヲ負フ者ニシテ第三者カ組合又ハ

會社ニ對シテ與フル信用ハ社員又ハ組合員ノ出資ニ非スシテ全財産ナリ故ニ其出資ハ必スシモ一定ノ財産ナルコトヲ要セスト雖モ合資會社ノ有限責任社員ニ在リテハ之ニ反シテ其出資以外ニ責任ヲ負ハサル者ナルヲ以テ其出資額ハ現實ノ財産ナラシムルコトヲ要ス但シ必スシモ金錢ナルコトヲ要セス第一〇八條

合名會社社員ハ定款ニ別段ノ定ナキトキハ會社ノ業務ヲ執行スル權利ヲ有シ(第五六條又各自會社ヲ代表スル權限アリ(第六一條蓋シ合名會社ニ在リテハ各社員皆全財産ヲ以テ會社債務ヲ負擔スルモノナルヲ以テ其權限モ亦平等ナルヲ原則トセルナリ合資會社ニ在リテハ)部ノ社員ハ其責任出資ニ限ルヲ以テ之ニ無限責任社員ト同等ノ權限ヲ與フルハ却テ公平ヲ失スルナリ故ニ業務執行權ト會社代表權トハ之ヲ無限責任社員ニ限レリ(第一〇九條第一一四條第一一五條)

有限責任社員ト雖モ其出資ノ割合ニ從ヒテ會社ノ損益ヲ分擔スル者ナルヲ以テ業務執行權又ハ會社代表權ハ之ヲ與フヘカラストスルモ之ヲシテ時時會

社ノ業務ノ狀況ヲ知ラシムルノ要アリ故ニ(第十一條ニ於テ各營業年度ノ終ニ於テ營業時間内ニ限リ會社ノ財産目錄及ヒ貸借對照表ヲ閱覽シ且ツ會社ノ業務及ヒ會社財産ノ狀況ヲ檢査スルコトヲ得セシメ又重要ナル事由アルトキハ何時ニテモ裁判所ノ許可ヲ得テ會社ノ業務及ヒ會社財産ノ狀況ヲ檢査ヲ爲スコトヲ得セシメタリ

合名會社社員ハ他ノ社員總體ノ承諾アルニ非ナレハ其持分ノ全部又ハ一部ヲ他人ニ讓渡スコトヲ得ス蓋シ合名會社社員ハ若無限責任ヲ負フ者ナルヲ以テ其社員ノ變更ハ他ノ社員ノ利害ニ關スルコト極メテ大ナリ故ニ各社員ニ持分ノ讓渡ニ承諾ヲ唱フル權利ヲ認メタリト雖モ合資會社ノ有限責任社員ノ持分ノ讓渡ニ關シテハ他ノ有限責任社員ニ此承諾ヲ唱フル權利ヲ賦與スル必要ナシ何トナレハ有限責任社員ハ其責任出資ニ限ルヲ以テ他ノ有限責任社員ノ變更ニ關シテハ利害ヲ感スルコト極メテ薄クシテハナリ之ニ反シテ無限責任社員ノ變更ニ關シテハ有限責任社員ニモ亦承諾ヲ唱フル權利ヲ與ヘザルヘカラス蓋シ有限責任社員カ一定ノ出資ヲ爲シテ業務ヲ執行ヲ全然無限責任

社員ニ一任スルハ其無限責任社員ヲ信スルコト厚ケレハナリ故ニ無限責任社員ノ持分ノ讓渡ニ關シテハ第五十九條ヲ準用シ有限責任社員ノ持分ノ讓渡ニ關シテハ特ニ第一百十二條ノ規定アルナリ第六十五條ニ曰ク社員ニ非サル者ニ自己ヲ社員ナリト信セシムヘキ行爲アリタルトキハ其者ハ善意ノ第三者ニ對シテ社員ト同一ノ責任ヲ負フト此規定ハ合資會社ニ準用セララルコト明カナリ然レトモ合資會社ニ在リテハ此他ニ猶ホ有限責任社員カ自己ヲ無限責任社員ナリト信セシムヘキ行爲アリタル場合ニハ善意ノ第三者ニ對シテ無限責任社員ト同一ノ責任ヲ負ハシムルコトヲ要ス(第一一六條)

無限責任社員ハ人的信用ヲ以テ立ツモノナルヲ以テ其死亡セル場合ニ其相續人ヲ以テ當然之ニ代ハラシムルコト能ハサルナリ然レトモ有限責任社員ニ在リテハ其責任出資ニ止マルヲ以テ人ノ交替ハ會社ノ利害ニ關スルコト薄シ故ニ其死亡セル場合ニハ相續人ヲシテ之ニ代ハリテ社員ト爲ラシムルハ單ニ弊害ナキノミナラス甚タ便利ナルモノアリ又禁治産ハ無限責任社員ニ在リテハ退社

原因ナリ是レ無限責任社員ハ其責任無限ニシテ又業務執行ノ權利アリ義務アル者ナルヲ以テ行爲能力ヲ喪失セル場合ニハ退社セシムルコト雙方ノ爲メ便利ナリト雖モ有限責任社員ハ自ラ業務ヲ執行スル權限ナキヲ以テ禁治産者ト爲ルモ必スシモ以テ退社セシムルニ及ハサルナリ第一一七條尤モ此規定ハ命令規定ニ非ス

合資會社ハ無限責任社員ト有限責任社員トヲ以テ組織スルヲ特徴トス故ニ孰レカ其一方カ全然退社シテ缺乏セルトキハ合資會社ハ解散ス然レトモ有限責任社員缺乏シテ無限責任社員ノミト爲レル場合ニ在リテハ合名會社ト區別スル所ナシ故ニ若シ總員ノ一致アルトキハ合名會社トシテ存續スルコトヲ許スナリ此場合ニ於テハ二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ合資會社ニ付テハ解散ノ登記ヲ爲シ合名會社ニ付テハ設立ノ登記ヲ爲サシムルナリ(第一一八條)

第四章 株式會社

株式會社ノ設立ヲ説明スルニ先チ一言スヘキコトアリ
株式會社モ亦商事會社ノ一ナリ株式會社ノ特色トスル所ハ其資本ヲ株式ニ分
割スルニ在リ其資本ノ全部カ株式ニ分タルルノ點ニ於テ彼ノ株式合資會社ナ
ルモノト異ナレリ此ニ資本ト云ヘルハ會社ノ財產ノ謂ニ非スシテ基本財產ト
モ稱スヘキモノナリ會社ノ財產ト云フトキハ現ニ會社カ有スル總テノ財產ヲ
指スカ故ニ會社カ營業上利益ヲ得タルトキハ會社ノ財產ハ資本ヨリ大ナルヘ
ク又損失ヲ生シタル場合ニ於テハ其財產ハ資本ヨリ少カラサルヲ得スト雖モ
會社ノ資本ハ一定不動ノモノニシテ増資又ハ減資ノ手續ニ依ルニ非サレハ之
ヲ増減スルコトヲ得ス即チ財產トハ全ク別物ニシテ財產ノ増減ニ因リテ資本
ノ増減ヲ來スコトナシ

此資本ハ總テ均一ナル株式ニ分割セサルヘカラス(第一四三條株式ノ金額ハ株
主即チ株式會社ノ社員ノ出資ノ單位ナリ尙ホ株式ノ事ニ付テハ第二節ニ至リ
詳説スルコトアルヘシ
株主ノ責任ハ株式ニ因リテ一定シ如何ナル場合ト雖モ株式金額ノ外ニ會社又

ハ第三者ニ對シテ毫モ責任ヲ負フコトナシ即チ他ノ會社例ヘハ合名會社ニ在
リテハ出資額ノ外自己ノ全財產ヲ以テ會社ノ義務ニ對シ其責任ヲ負ハサルヘ
カラスト雖モ株式會社ノ株主ハ自己ノ出資額即チ株式ノ外更ニ責任ヲ負フコ
トナシ

株式會社カ經濟上極メテ必要ノモノタルコトハ更ニ言フヲ埃タス今其理由ノ
一端ヲ示サンニ株式會社ハ資本ヲ多數ノ株式ニ分割シ多人數ノ手ヨリ之ヲ集
ムルヲ以テ零碎ナル資本ヲ集合シテ之ヲ大事業ニ利用スルコトヲ得ヘシ是レ
國家ノ經濟上ヨリ考フルモ個人ノ經濟上ヨリ觀ルモ極メテ有益ナルモノナリ
又其事業カ偶々失敗シテ損失ヲ被ル場合ニ於テモ其損失ヲ多人數ノ上ニ分配ス
ルカ故ニ之カ爲メ個人ノ資産ヲ蕩盡スルカ如キ危險ナク又其株主ノ身上ノ信
用ヲ基礎トシタル團結ニ非サルカ故ニ株主タル個人ノ異動又ハ其財產上ノ地
位ノ變動ハ會社ノ存立ニ影響ヲ及ホスコトナシ

然レトモ一利一害ノ相伴フハ事物ノ數ニ於テ免レサル所ナリ株式會社ノ利用
ハ前述ノ如ク大ナリト雖モ其弊害モ亦極メテ大ナリ其弊害ノ著シキモノハ所

謂株式詐偽ナリ即チ株式會社ヲ設立シ其事業ノ將來ヲ極メテ有望ナルモノヲ類
 シテ鼓吹シ株式(或ハ權利株ヲ稱貴セシメテ賣リ以テ巨利ヲ博スル如キ是ナ
 リ其發起人ハ會社事業ニ因リテ利益ヲ得ル目的ヲ以テ會社ヲ發起スルニ非ス
 シテ株式ヲ賣却スル目的ヲ以テ會社ヲ設立セント欲スルナリ方今各地方ニ在
 リテ萎微振ハサル多數ノ株式會社中此種發起人ノ投機的企圖ニ成リシモノ少
 カラサルヘシ此他發起人カ發起費用トシテ多額ノ金錢ヲ攫取スルカ如キ又取
 締役カ會社事業ニ利害ノ念ヲ有スルコト薄クシテ甚シキハ會社事業ニ依リテ
 私利ヲ營ムカ如キ株式會社ニ伴フ弊害枚舉ニ遑アラザルナリ是ヲ以テ各國ノ
 法制ハ區區ナリト雖モ要スルニ株式會社ノ弊害ヲ矯正スル精神ヲ以テ規定ヲ
 設クルハ一ナリ

我舊商法ハ株式會社ヲ設立スルニハ政府ノ免許ヲ受クヘキコトヲ規定セリ
 我舊商法ノ下ニ於テ株式會社ヲ設立スルニ發起人ハ先ツ發起ノ認可ヲ受ケテ
 發起手續ヲ完了シ更ニ設立ノ免許ヲ得ナルヘカラス然ルニ新商法ニ於テハ此
 主義ヲ排斥シテ自由設立主義ヲ採用セリ蓋シ免許主義ヲ採ルモ政府カ設立ヲ

許否スル理由ハ單ニ商法ニ規定セル設立手續ニ違反スルコトナキヤ否ヤニ在
 リトスレハ之ヲ利害關係者ノ自衛ニ放任スルモ可ナリ又其目的ノ不法ナラザ
 ルヤ公安秩序ニ妨クナキヤ否ヤニ在リトスレハ之ヲ司法ノ手ニ一任スルモ可
 ナリ若シ夫レ之ヲ社會經濟ノ狀勢ヨリ觀察シテ會社事業ノ消長ヲ考察シ又ハ
 其事業ノ前途ヲ揣摩シテ以テ許否ヲ決セシムル趣旨ナリトセハ其趣旨ハ到底
 之ヲ貫徹スルコト能ハサル虞アルノミナラス政府ノ免許ハ偶政府カ其會社ノ
 信用ヲ保證スルカ如キ結果ヲ生スルヲ以テ管ニ無益ナルノミナラス却テ弊害ヲ
 生スルノ恐ナシトセス故ニ會社ノ盛衰興亡ハ一ニ之ヲ經濟社會ノ實勢ニ委付
 シテ法律ハ唯株主ト債權者トヲ救済スルカ爲メニ十分ナル保護規定ヲ設ケ以
 テ彼等ヲシテ自衛セシムルナリ是レ新商法ニ於テ自由設立主義ヲ採用スルト
 同時ニ株式會社ノ章ニ於テ多數ノ嚴密ナル命令規定ヲ設定セシ所以ナリ

第一節 會社ノ設立

會社ノ設立事務ヲ第一ニ取扱フヘキ者ハ發起人ナリトス發起人ハ七人以上オ

ルコトヲ要ス舊商法ニ於テハ株式會社ハ少クトモ株主七人以上アルコトヲ必要トシ其發起人ハ四人以上ナルヲ以テ足レリトセシモ新商法ニ於テハ發起人ノ數モ亦七人以上ナルコトヲ要スト規定セリ(第一一九條)

發起人ノ事務ハ第一、定款ヲ作成スルコト第二、株式引受人ヲ定ムルコト第三、株主總會ヲ召集スルコト是ナリ

第一 定款ノ作成

定款ハ會社即チ法人ノ組織及ヒ其行動ノ法則ヲ規定スルモノナルヲ以テ法令ノ範圍内ニ於テ各會社隨意ニ之カ規定ヲ設クヘシト雖モ一定ノ事項ハ必ス之ヲ定款ニ規定セシメサルヘカラサルモノアルカ故ニ法律ハ定款事項ヲ定ムルナリ第一二〇條舊商法ハ目論見書事項ヲ規定セルモ定款事項ヲ規定セザリシカ新商法ハ目論見書ノ規定ヲ削除セシノミナラス舊商法ノ所謂目論見書事項ノ多クハ先ツ定款ニ於テ定メサルヘカラサル事項トセリ

第一百二十條ニ規定セル定款事項ハ左ノ如シ

一 目的

二 商號

三 資本ノ總額

四 一株ノ金額

五 取締役カ有スヘキ株式ノ數

六 本店及ヒ支店ノ所在地

七 會社カ公告ヲ爲ス方法

八 發起人ノ氏名住所

右ノ事項中第一號乃至第四號及ヒ第八號ノ事項ハ必ス發起人ニ於テ之カ記載ヲ爲ササルヘカラスト雖モ第五號乃至第七號ノ事項ハ性質上必ス發起人カ之ヲ定メサルヘカラサルニ非ス場合ニ依リテハ却テ總會ニ於テ之ヲ定ムルヲ便トスルコトアルヘキヲ以テ發起人ハ之ヲ定メスシテ創立總會又ハ株主總會ニ於テ之ヲ補足スルコトヲ得ルナリ但シ此總會ハ定款事項ヲ定ムルモノナルヲ以テ定款變更ノ場合ト同様ナル手續ニ依ラサルヘカラスト(第一二一條)第一百二十條ニ掲ケタル事項ハ會社カ必ス之ヲ定メサルヘカラサル事項ナリ此

他會社カ必ス定メサルヘカラサルニ非サルモ若シ之ヲ定メント欲セバ必ス定
款ヲ以テ之ヲ定メサルヘカラサル事項アリ第百二十二條ニ掲ケタル事項是ナ
リ

一 存立時期又ハ解散ノ事由

二 株式ノ額面以上ノ發行

三 發起人カ受クヘキ特別ノ利益及ヒ之ヲ受タヘキ者ノ氏名

四 金銭以外ノ財産ヲ以テ出資ノ目的ト爲ス者ノ氏名其財産ノ種類價格及
ヒ之ニ對シテ與フル株式ノ數

五 會社ノ負擔ニ歸スヘキ設立費用及ヒ發起人カ受タヘキ報酬ノ額

凡ソ此等ノ事項ハ必ス定メサルヘカラサルニ非ス然レトモ若シ之ヲ定メント
欲セハ必ス定款ヲ以テセサルヘカラスト云フナリ特ニ第三號乃至第五號ノ事
項ノ如キハ發起人カ往依リテ以テ不當ノ利得ヲ試ミントスル所ナルヲ以テ
豫メ之ヲ定款ニ記載シテ公定セシムルナリ

發起人ハ第百二十條及ヒ第百二十二條ノ趣旨ニ從ヒテ定款ヲ作リ之ニ署名ス

ルコトヲ要ス署名ハ定款ノ必要條件ニシテ之ヲクシハ定款タル效力ナキナリ
舊商法ハ定款ハ創立總會ニ於テ確定スルモノトシ發起人カ作成スル所ノモノ
ヲ假定款ト稱シタリ新商法ハ初ヨリ之ヲ定款ト稱シ發起人ニ由リテ定款ハ確
定ス然レトモ新舊商法ノ規定ハ之ヲ實際ニ適用スレハ結果ハ同一ナリ何トナ
レハ定款ヲ創業總會ニ於テ變更スルコトヲ得ルヲ以テナリ

第二 株式ノ引受

株式ノ引受ニ二種アリ一ハ發起人ノ引受ニシテ他ハ募集ニ因ル引受ナリ發起
人カ株式ノ全部ヲ引受タルトキハ會社ハ株式ノ引受ノ完了ト同時ニ成立ス發
起人カ株式ノ全部ヲ引受ケサルトキハ發起人ハ株主ヲ募集ス此場合ニ於テハ
會社ハ創立總會ノ終結ニ因リテ成立ス

(イ) 發起人カ株式ノ總數ヲ引受ケタルトキハ會社ハ株式ノ引受ヲ以テ成立シ
各發起人ハ其引受ケタル株式ニ付キ直チニ四分ノ一ノ拂込ヲ爲ササルヘカラ
ス又取締役監査役ノ選任ヲ爲ササルヘカラス此選任ヲ決スルニハ議決權ノ過
半數ヲ要スルナリ(第一二三條)

斯クテ選任セラレタル取締役ハ検査役ノ選任ヲ裁判所ニ請求ス蓋シ此場合ニ於テハ會社ハ發起人カ株式ノ總數ヲ引受クルニ因リテ成立スルヲ以テ會社設立ノ手續ハ一切少數ナル發起人ノ手ニ在リ而シテ彼等ヨリ選任セラレタル取締役モ亦發起人ナルヲ以テ發起手續中如何ナル不正ノ行為アルトモ之ヲ隱秘スルコトヲ得テ第三者ハ其内情ヲ窺ヒ得サル虞アルヲ以テ法律ハ特ニ検査役ノ選任ヲ申請セシムルナリ検査役ノ職務ハ第二百二十二條第三號乃至第五號ニ掲ケタル事項及ヒ第一回ノ拂込ヲ爲シタルヤ否ヤヲ調査スルニ在リ

第二百二十二條第三號乃至第五號ノ事項ハ發起人カ受クヘキ特別利益金錢以外ノ出資設立費用及ヒ發起人ノ報酬等ニシテ皆往發起人カ依リテ以テ不當ノ利益ヲ分得テ會社ノ財産上ノ地位ヲ危險ナラシムル所ノモノナリ又第一回ノ拂込ノ如キモ或ハ現實ノ拂込ヲ爲サスシテ世人ヲ欺瞞スル者アリ故ニ検査役ヲ選任シテ此等ノ點ヲ精査シテ報告セシメ其報告ニ據リ裁判所ハ第二百二十二條第三號乃至第五號ノ事項ヲ不當ト認メタルトキハ之ヲ變更スルコトヲ得ルコトハ第三百三十五條ノ場合ニ於ケル創立總會ノ權限ト同シ(第一二四條)

(ロ) 發起人カ株式ノ總數ヲ引受ケタルトキハ株主ノ募集ヲ爲ササルヘカラス
第一二五條
 株主ヲ募集スルニハ發起人ハ株式申込證ヲ作ラサルヘカラス株式申込證ニハ

左ノ事項ヲ記載スヘシ(第一二六條)
 一 定款作成ノ年月日

二 第二百二十條及ヒ第二百二十二條ニ掲ケタル事項

三 各發起人カ引受ケタル株式ノ數

四 第一回拂込ノ金額
 申込證ヲ作ルコト及ヒ申込證ニハ必ス前記ノ事項ヲ記載スルコトハ共ニ發起人ノ義務ニシテ若シ此規定ニ違反シテ申込證ヲ作ラサルカ又ハ記載事項ヲ缺

キタルカ又ハ不正ニ記載シタルトキハ第二百六十一條ノ規定ニ依リ五圓以上五百圓以下ノ過料ニ處セラル蓋シ新商法ノ申込證ハ會社設立ニ關スル要件ヲ豫メ株式申込人ニ告知セシムルモノニシテ舊商法ニ於ケル目論見書公告ト同主義ニ基キタルモノナリ故ニ之ニ關スル發起人ノ義務ヲ嚴ニセザルナリ

申込入ハ以上ノ事項ヲ記載セタル申込證ニ通ニ其引受ケタル株式ノ數ヲ記入シ之ニ署名スルコトヲ要ス尙ホ又株式ノ額面以上ノ價格ニテ例ハ百圓株ヲ百何圓ニテ發行シタル場合ニハ其引受價格百何圓ヲ記載セサルヘカラス
 株式ノ金額ハ一定スト雖モ其賣買價格ハ必スモ額面金額ト一致セサルナリ株式會社ノ事業ノ收益多キ場合ニハ其市價ハ額面或ハ拂込高以上ニ上ルコトアルト同シク將ニ設立セントスル會社ノ事業ノ前途甚ク多量ナルカ又ハ利益多キ會社カ新株ヲ發行スル場合ニハ好ミテ額面以上ニテ引受クル者アルナリ而シテ額面以上ニテ株式ヲ發行スルコト妨ケンシト雖モ額面以下ニテ株式ヲ發行スルコトヲ許サス蓋シ株式ハ會社ノ資本ナリ會社ノ資本ハ會社信用ノ基礎ナリ故ニ若シ額面以下ニテ株式ヲ發行スルトキハ會社ノ資本ハ本ハ名實相適ハス世人ニ信用ヲ誤ラシムル恐アルナリ第一二八條第一項) 株式申込入カ以上ノ手續ヲ爲シタルトキハ申込ハ成立シ之ニ因リテ申込入ハ其引受クヘキ株式ノ數ニ應シテ拂込ヲ爲ス義務ヲ負フナリ
 株式ノ申込ハ契約ノ申込ナルヤ將タ承諾ナルヤハ學者ノ往往論爭スル所ナ

ヲ株式ノ申込ヲ以テ承諾ナリトスル者ハ株式申込證ノ交付ヲ以テ契約ノ申込ト看做シ之ニ反シテ株式申込ヲ契約ノ申込ナリトスル者ハ申込證ノ交付ヲ以テ單ニ申込ヲ募集スルモノト爲スナリ此議論ヲ決スルニハ申込證ノ交付カ契約ノ申込ノ要件ヲ備ヘタルヤ否ヤヲ決セサルヘカラス愚見ニ依レハ申込證交付ノ性質ハ各場合ニ於テ募集者ノ意思ニ因リテ定マルモノニシテ一概ニ之ヲ論斷スルコト能ハス第百二十七條ニ於テ株式ノ申込ヲ爲シタル者ハ其引受クヘキ株式ノ數ニ應シテ拂込ヲ爲ス義務ヲ負フト言ヘルハ株式ノ申込ヲ以テ契約ノ承諾ト看タルノ成アリト雖モ必スシモ文字ニ拘泥スルコトヲ要セサルヘシ
 株式ノ總數ニ滿タサルトキハ發起人ハ自ら之ヲ引受タルカ或ハ又創立總會ニ資本減少ノ決議ヲ求メサルヘカラス
 株式ノ總數ニ對スル申込アリテ株式ノ引受人確定セルトキハ發起人ハ直チニ各株式ニ付キ拂込ヲ爲サシメサルヘカラス株式ノ拂込ハ或ハ一次ニ全部ヲ拂込マシムルコトアリ或ハ數回ニ分割シテ拂込マシムルコトアリ數回ニ分割シ

ヲ拂込マシムル場合ニ於テハ第一回ノ拂込ハ少クモ株式金額四分ノ一以上ナ
 ラサルヘカラス額面以上ノ價格ヲ以テ株式ヲ發行シタルトキハ其額面ヲ超ユ
 ル金額ハ第一回ノ拂込ト同時ニ拂込マシムルナリ
 發起人ハ第一回ノ拂込ヲ爲スヘキコトヲ通知シタルトキハ株式引受人ハ直チ
 ニ之ヲ拂込マサルヘカラス若シ之カ拂込ヲ怠リタルトキハ發起人ハ二週間以
 上ノ期間ヲ定メテ此期間内ニ拂込ヲ爲スヘキコトヲ通知シ若シ此期間内ニ拂
 込ヲ爲ササルトキハ株式引受人ノ權利ヲ失フヘキコトヲ豫告スルコトヲ得此豫
 告ヲ爲シタルニ拘ラス尙ホ引受人カ拂込ヲ爲ササルトキハ引受人ハ株式引受
 ノ權利ヲ失フヘシ此場合ニ於テハ發起人ハ更ニ株主ヲ募集シ又引受人ノ拂込
 ノ滞納ニ因リテ損害ヲ生シタルトキハ引受人ニ對シテ損害賠償ヲ請求スルコ
 トヲ得ルナリ(第一三〇條)

舊商法ニ於テハ第一回ノ拂込ヲ怠リタル者ニ對シテ爲スヘキ處分方法ヲ規
 定セザリシヲ以テ或ハ定款ニ於テ新商法第百三十條ノ規定ノ如キ規定ヲ設
 ケタルモノアリキ然レトモ舊商法ノ規定ニ從ヘハ第一回ノ拂込ハ已ニ會社

ノ成立シタル後ニ在ルヲ以テ會社成立後ニ既定ノ資本ニ對シテ株主ノ募集
 ヲ爲スト云フハ不法ノ嫌ナキ能ハス

株式總數ノ引受アリタル後一年内ニ第一回ノ拂込カ終ラサルトキハ已ニ拂込
 ヲ爲シタル株式引受人ハ其中込ヲ取消シ拂込ミタル金額ノ返還ヲ請求スルコ
 トヲ得(第一四〇條)

斯クテ第一回ノ拂込ヲ終リタルトキハ發起人ハ直チニ創立總會ヲ召集シテ會
 社ノ發起ニ關スル事項ヲ報告セサルヘカラス若シ第一回ノ拂込ヲ終リタル後
 六箇月内ニ創立總會ヲ召集セサルトキハ株式引受人ハ其中込ヲ取消シ拂込ミ
 タル金額ノ返還ヲ請求スルコトヲ得凡ソ株式申込ノ取消サレタルトキハ發起
 人ハ更ニ株主ヲ募集スルカ或ハ自ら之ヲ引受けサルヘカラス

創立總會ヲ召集スルニハ二週間前ニ株式引受人ニ目的及ヒ決議事項ヲ記載シ
 タル通知ヲ發スヘシ創立總會ハ株式引受人ノ半数以上ニシテ其引受けタル株
 式ノ總計カ資本ノ半額以上ニ該當スル者出席スルニ非サレハ議事ヲ開クコト
 ヲ得ス面シテ決議ヲ爲スニハ出席者ノ議決權ノ過半数ヲ以テス引受人ノ議決

權ハ一株ニ付キ一箇ヲ原則トスルモ定款ヲ以テ十一株以上ヲ引受ケタル者ノ議決權ノ數ヲ制限スルコトヲ妨ケス又株式引受人ハ代理人ヲ以テ議決權ヲ行フコトヲ得ヘシ代理人ヲ以テ議決權ヲ行ハントスルトキハ豫メ代理權ヲ證スル書面ヲ會社ニ差出スヘシ創立總會ノ議事ニ付キ利害關係ヲ有スル者ハ議決ニ與カルコトヲ得ス(第一三一條)

創立總會召集ノ手續又ハ其議決ノ方法ニシテ法令又ハ定款ノ規定ニ背キタルトキハ引受人ハ決議ノ日ヨリ一个月内ニ創立總會ノ決議ヲ無効トスル宣告ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得(第一三一條第三項第一六三條)

創立總會ニ於テハ又取締役及ヒ監査役ヲ選舉セサルヘカラス選舉セラレタル取締役及ヒ監査役ハ株式總數ノ引受アリタルヤ否ヤ各株ニ付キ第一回ノ拂込(額面以上ニテ)株式ヲ發行シタルドキハ同時ニ額面ヲ超エタル金額ノ拂込モヲ終リタルヤ否ヤ及ヒ發起人カ受クヘキ特別ノ利益及ヒ之ヲ受クヘキ者ノ氏名金額以外ノ財産ヲ以テ出資ノ目的ト爲ス者ノ氏名其財産ノ種類價格及ヒ之ニ對シテ與フル株式ノ數會社ノ負擔ニ歸スヘキ設立費用及ヒ發起人カ受クヘキ

報酬ノ額等ヲ調査シテ之ヲ創立總會ニ報告スヘシ若シ又取締役又ハ監査役中發起人ヨリ選任セラレタル者アルトキハ創立總會ハ特ニ検査役ヲ選任シテ之ヲシテ其者ニ代ハリテ右ノ調査及ヒ報告ヲ爲サシムルコトヲ得ルナリ(第一三四條)是レ發起人カ株式全部ヲ引受ケタル場合ニ於テ検査役ノ選任ヲ要シタルカ如ク發起人カ受クヘキ特別利益金額以外ノ出資設立費用等總テ發起人ノ利害關係アル事項ヲ調査セシムル必要アルヲ以テナリ而シテ創立總會ハ此等ノ事項ノ調査報告ヲ得テ不當ト認ムルモノアルトキハ之ヲ變更スルコトヲ得ルナリ若シ又引受ナキ株式申込ノ取消サレタル株式又ハ第一回拂込ノ未済ナル株式等アルトキハ發起人ハ連帶シテ其株式ヲ引受タルカ又ハ其者ニ代ハリテ拂込ヲ爲ササルヘカラス又之カ爲メ會社ニ損害アルトキハ賠償ノ責任アルナリ創立總會ハ會社ノ成立ヲ確定スルモノナルヲ以テ定款ヲ變更スルコトヲ得ル(ハ勿論會社設立ノ廢止モ亦之ヲ議決スルコトヲ得ヘシ)即チ會社ノ創立手續ニ最後ヲ與フルモノニシテ若シ會社ノ設立ヲ廢止セザルニ於テハ會社ハ創立總會ノ終結ノ時ヲ以テ成立スルナリ故ニ發起人ノ事務ハ此ニ終了ス

會社ヲ成立シタルトキハ設立ノ登記ヲ爲ササルヘカラス設立ノ登記ハ取締役
 之ヲ爲スヘシ設立ノ登記ハ一定ノ期間内ニ之ヲ爲ササルヘカラス此期間ハ發
 起人カ株式ノ總數ヲ引受ケタルトキハ第二百二十四條ニ規定セル調査終了ノ日
 ヲリ起算シ又發起人カ株主ヲ募集シタル場合ニハ創立總會ノ終結ノ日ヨリ起
 算シ二週間内ニ之ヲ爲ササルヘカラス
 登記ハ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ之ヲ爲ササルヘカラス登記スヘキ事項ハ
 左ノ如シ

- 一 第一百二十條第一號乃至第四號及ヒ第七號ニ掲ケタル事項
- 二 本店及ヒ支店
- 三 設立ノ年月日
- 四 存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其時期又ハ事由
- 五 各株ニ付キ拂込ミタル株金額
- 六 開業前ニ利息ヲ配當スヘキコトヲ定メタルトキハ其利率
- 七 取締役及ヒ監査役ノ氏名住所

手形ノ所持人カ支拂人ノ引受ヲ求メタル場合ニ若シ支拂人カ引受ヲ拒絕スル
 カ又ハ支拂地ニ於テ支拂人ヲ見出スコト能ハサルカ又ハ支拂人ハ前説明ノ如ク
 法律ノ規定ノ結果トシテ引受ヲ爲サザリシモノト看做ササルニ於テハ手形ハ
 其趣旨ノ如ク履行セラルヘキヤ否ヤニ付キ疑ヲ生スルコトヲ免レス但シ此等
 ノ場合ト雖モ満期日ニ至リ支拂ハルルコトナキニ非ス然レトモ償還義務者タ
 ル振出人其他裏書人ハ満期日前ニ於テ引受ヲ爲サシムヘキコトヲ擔保シタル
 者ナルカ故ニ所持人ハ之ニ對シテ擔保ヲ請求スルコトヲ得又爲替手形ノ支拂
 人カ引受ヲ爲シタル後ト雖モ若シ引受人ノ資力ニ於テ支拂ヲ爲ス能ハサルコ
 ト明カナルトキハ其引受ハ信用スヘキモノニ非ス所持人ヨリ觀レハ宛モ其引
 受ナカリシトキト同一ナリトス故ニ此場合ニ於テモ亦擔保ヲ供セシムルコト
 ヲ得蓋シ此第二ノ場合ニ於ケル立法例ハ一定セズ例ヘハ舊商法ノ如キハ佛法
 ト同一主義ヲ採用シ手形所持人ハ満期日前ニ支拂拒絕證書ヲ作り前者ニ對シ
 償還請求ヲ爲スコトヲ得ルモノトセリ(舊商法第七七九條佛國商法第一六三
 條英國手形法モ亦同一ナリ然レトモ満期日前直チニ償還履行ノ請求即チ償還

請求ヲ爲サシムルコトハ條理ニ適セス而シテ償還義務者ニ於テ滿期日ニ支拂ハルベキコトヲ有形的ニ擔保スル以上ハ必スシモ直チニ償還請求ヲ爲サシムルノ要ナシ是ヲ以テ新商法ハ近世手形法ノ主義ヲ採用シ右ノ場合ニハ所持人ヲシテ唯擔保ヲ請求スルコトヲ得セシムルコトトセリ

手形ノ擔保ヲ論スルニハ左ノ三項ヲ説明セサルヘカラス

第一 所持人ハ如何ナル條件ニ依リテ擔保ノ請求ヲ爲スコトヲ得ルヤ

第二 擔保ノ目的及ヒ擔保ノ種類如何

第三 擔保ハ如何ナル場合ニ其效力ヲ失フヤ

以下順次之ヲ説明スヘシ

第一 擔保ノ請求ヲ爲スニハ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス(第四七四條第四

七五條第五〇〇條)

(イ) 適法ナル手形ヲ所持スルコト 手形ヲ所持セサレハ手形上ノ請求ヲ爲

スコトヲ得サレハナリ

(ロ) 引受拒絶證書ノ作成但シ變備支拂人ノ記載アル場合ニ於テハ之ニ對シ

テモ引受ヲ求め拒絶證書ニ引受ケサル旨ヲ記載セシムルコト

(ハ) 擔保ヲ供セシメント欲スル前者ニ對シテ其旨ノ通知ヲ發スルコト

第二 目的

擔保ハ手形金額及ヒ引受ナカリシ爲メニ要シタル費用ニ對スルモノナルコトヲ要ス一部引受アリタル場合ニ於テハ其引受ナキ部分ニ對スルモノニ限ルコトハ言フ埃タス擔保ハ法律ニ制限ナキニ由リ物權擔保タルト債權擔保タルトヲ論セス義務者ノ選擇ニ從ヒ之ヲ供スルコトヲ妨ケス

擔保義務者ハ引受證書ト引換ニ非サレハ擔保ヲ供スルコトヲ要セス(第四七七條)又擔保義務者ハ擔保ニ該當スル金額ヲ供託シテ擔保ヲ供スル手數ヲ省クコトヲ得ヘシ(第四七八條)

擔保ノ請求ハ必スシモ裏書ノ順序ニ從ヒ前者ニ之ヲ爲スコトヲ要セス又擔保ノ請求ヲ受ケタル者モ亦其前者ニ對シテ擔保スヘキ金額及ヒ費用ニ付キ擔保請求ノ通知ヲ發シ擔保ヲ請求スルコトヲ得(第四七六條)

右ノ如ク擔保ノ請求ヲ爲スニハ必スシモ直接ノ前者ニ對シテ爲スコトヲ要セ

順序ニ拘ラス之ヲ請求スルコトヲ得ルモノトスル以上ハ順序ヲ超越シテ擔保ノ請求ヲ爲シタル所持人アル場合ニ於テハ其發シタル通知並ニ被請求者ノ供シタル擔保ハ唯其所持人ノ爲メ效力ヲ有スルノミナラス被請求者ノ後者全員ノ爲メ且ツ其全員ニ對シテ效力ヲ有セシムルコト極メテ便宜ナルヘシ何トナレハ此ノ如クスルトキハ通知ノ發送ノ數ヲ省キ擔保ノ重複ヲ避ケ結局經濟的利益アルハナリ蓋シ第四百七十八條ノ規定アル所以ナリ

手形支拂ノ引受ナキトキ又ハ引受アリタルトキト雖モ支拂實力ノ不確實ナル場合ニ於テハ擔保ノ請求ヲ爲スコトヲ得ルコト右ニ述ヘタル如シ然レトモ左ノ場合ニ於テハ所持人ハ此請求ヲ爲スコトヲ得ス

- (イ) 裏書人カ裏書ヲ爲スニ當リ手形上ノ責任ヲ有セサル旨又ハ爾後裏書ヲ禁止スル旨ヲ記載シタルトキハ其被裏書人ハ此者ニ對シテハ擔保ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

- (ロ) 爲替手形ニ豫備支拂人ノ記載アル場合ニ於テ其豫備支拂人カ單純ナル引受ヲ爲シタルトキ

- (ハ) 振出人又ハ或裏書人カ所持人ニ對シテ豫備擔保ヲ供シタル場合此合ニ於テハ更ニ擔保ヲ請求スルニ及ハス其理由自ラ明カナリ

第二款 擔保ノ消滅

擔保請求ノ目的ハ支拂人カ支拂引受ヲ爲ササルニ因リ手形金額ハ満期日ニ支拂ハレナルコトアルヘシトノ危険アルニ由ル故ニ此危険ノ存在セサル場合ニ於テハ既ニ供シタル擔保ハ自ラ消滅ス

- (イ) 支拂人ハ前ニ引受ヲ爲サナリシト雖モ後ニ至リ單純ナル引受ヲ爲シタルトキ

- (ロ) 手形金額及ヒ無引受ノ爲メ生シタル費用ノ支拂アリタルトキ
- (ハ) 擔保ヲ供セ若クハ供託ヲ爲シタル者又ハ其前者カ所持人ニ對シテ償還義務ヲ履行セタルトキ

- (ニ) 手形上ノ權利カ時效又ハ手續ノ欠缺ニ因リテ消滅シタルトキ
- (ホ) 擔保ヲ供シ又ハ供託ヲ爲シタル者カ満期日ヨリ一年内ニ償還ノ請求ヲ

受ケサリシトキ

支拂引受人カ支拂ヲ爲ス實力ヲ有スルヤ否ニ付キ疑アルニ至リタル場合ニ於テハ所持人ハ引受アリタルニ拘ラス前者ニ對シ擔保ノ請求ヲ爲スコトヲ得但シ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

- (イ) 支拂引受人ハ破産ノ宣告ヲ受ケタルコト 舊商法ニ於テハ引受人カ破産若クハ家資分散ノ宣告ヲ受ケタル場合及ヒ其他實力ノ不確實ナル場合ニ於テ擔保ヲ供セシムルコトヲ得セシメタリ然レトモ其他實力ノ確ナラスト云フ如キハ漠然タル規定ニシテ却テ爭訟ヲ生スル虞アルカ故ニ新商法ニ於テハ破産ノ宣告アリタル場合ヲ以テ支拂實力不確實ナル場合トセリ蓋シ破産宣告アリタル場合ニ於テハ其清算ニ付キ多分ノ日時ヲ要スルノミナラス勦方財産ハ以テ受方財産ヲ償却スルコト能ハサルコト普通ナルヲ以テ此場合ニ於ケル擔保ノ請求ヲ爲サシムヘキ事由アリト謂ハサルヲ得ス
- (ロ) 引受人カ擔保ヲ供セサルコト 破産ノ宣告ヲ受ケタル者ハ其財産ヲ處分スル權利ヲ有セサルカ故ニ自己ノ財産ヲ擔保ニ供スルコトヲ得サルコト

ト勿論ナレトモ他人ハ其保證人ト爲リ又ハ其財産ヲ以テ擔保ニ供スルコトアルヲ以テ破産ノ宣告ヲ受ケタル引受人ト雖モ擔保ヲ供スルコトヲ得ヘシ

- (ハ) 手形ニ豫備支拂人ノ記載ナキコト若シ其記載アルトキハ之ニ對シテ引受ヲ求メタルモ其單純ナル引受ナカリシコト
 - (ニ) 擔保ヲ供セシメントスル前者ニ對シテ擔保請求ノ通知ヲ發スルコト右ノ條件ヲ具備スルニ非サレハ所持人ハ其前者ニ對シテ擔保ノ請求ヲ爲スコトヲ得ナルモノトス(第四八〇條)
- 手形償還義務者カ供シタル擔保ハ左ノ場合ニ於テハ其效力ヲ失フ
- (イ) 豫備支拂人カ後口ニ至リ單純ナル引受ヲ爲シタルトキ
 - (ロ) 引受人カ後口ニ至リ相當ノ擔保ヲ供シタルトキ
 - (ハ) 其他引受ナガリシ場合ニ供シタル擔保カ效力ヲ失フ場合

第五節 支拂

商法手形 爲替手形 支拂

手形ノ用途ニ種種アルコトハ既ニ述ヘタル所ニシテ例ヘハ第三者ノ爲メ手形ヲ振出シテ其義務ヲ擔保シ又ハ之ヲ以テ支拂ノ方法ト爲セ或ハ又自己ノ信用ヲ行使スル等ノ如シ然レトモ結局ノ目的ハ之ヲ以テ一時金銭ニ代用スルニ在ルヲ以テ手形ノ效用ハ其支拂ノ時期ニ相違ナク支拂ハルルニ因リテ顯ハルルモノナリト謂フコトヲ得ヘシ蓋シ手形支拂ナルモノモ一ノ債務ノ履行ニ外ナラサルカ故ニ其有效ナル履行アリトスルニハ他ノ一般債務ノ履行ニ於ケルト同シク支拂ヲ受クヘキ者カ之ヲ爲スヘキ者ニ對シテ其請求ヲ爲シ手形ノ趣旨ニ從ヒ支拂アリタル場合ニ非サレハ支拂アリト謂フコトヲ得ス故ニ本節ニ於テ説明ヲ要スル點ハ當ニ左ノ如クナルヘシ

- 第一 爲替手形ノ支拂ハ何人カ之ヲ爲スヘキモノナルヤ
 - 第二 爲替手形ノ支拂請求ハ何人カ之ヲ爲スヘキモノナルヤ
 - 第三 爲替手形ノ支拂ハ如何ニ之ヲ爲スヘキモノナルヤ
- 此問題ニ對スル簡單ノ答ハ支拂ヲ爲スヘキ者ハ手形引受人ニシテ支拂ヲ請求スヘキ者ハ手形ノ受取人其他手形ノ所持人ナリ而シテ支拂ハ適法ノ場所及ヒ

時ニ於テ爲スコトヲ要スト云フニ歸著ス然レトモ之ヲ以テハ未タ十分ニ其意義ヲ明カナラシムルコトヲ得ス尙ホ違ミテ仔細ニ其説明ヲ爲ササルヘカラスニ本節ハ之ヲ分テテ左ノ三點トス

- 第一 爲替手形ノ支拂ノ請求ハ何時何レノ處ニ於テ之ヲ爲スヘキモノナリヤ及ヒ爲替手形ノ支拂ノ目的如何
- 第二 爲替手形ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得ル者ハ何人ナリヤ及ヒ其者ハ如何ニ之ヲ請求スルコトヲ要スルヤ
- 第三 爲替手形ノ支拂ヲ爲スヘキ者及ヒ其者カ支拂ヲ爲スニ付キ有スル權利如何

以下順次之ヲ説明セントス

- 第一 爲替手形ノ支拂ノ請求ヲ爲スヘキ時場所及ヒ其目的如何
爲替手形ノ支拂ノ請求ハ滿期日ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得ルモノナルカ故ニ滿期日トハ如何ナル日ヲ云フヤノ問題ヲ決セザルヘカラス而シテ滿期日ニ於テモ支拂人カ支拂ヲ爲スヘキ場所ハ一定ナルカ故ニ支拂ヲ爲スヘキ處ヲ論セザ

ルヲ得ス又手形債務ハ必ス金錢ヲ目的トスヘキモノニシテ他物ヲ以テ之ニ充
フルコト能ハサルコトハ既ニ述ヘタル所ノ如シ故ニ更ニ此點ヲ分析シテ説明
スルコト左ノ如シ

(甲) 満期日 満期日トハ手形金額カ支拂ハルヘキ時トシテ手形上ニ記載セラ
レタル當日ヲ謂フ此點ニ付キ注意スヘキハ手形上ト言ヘルコトナリ手形ハ要
式行爲ナルヲ以テ手形上ニ記載ナケレハ當事者カ如何ニ明確ナル意思ヲ以テ
支拂ノ日時ヲ定ムルモ所謂満期日トシテ效力ヲ生スヘキモノニ非サルナリ満
期日ハ既ニ説明シタル如ク法定ノ範圍内ニ於テ手形振出人ニ於テ隨意ニ之ヲ
定ムルコトヲ得第四五〇條又其期日ハ一ノ手形金額ニ付テハ必ス同日ニ在
ルコトヲ要ス換言スルハ分期拂ノ方法ハ手形ノ法理上認メサル所ナリ此點ニ
付テハ法律ニハ明文ノ記載ナシト雖モ手形ノ性質上然ラサルヲ得サルモノト
ス

満期日ノ如何ハ第四百五十條ノ規定スル所ニシテ其最モ明白ナルモノハ確定
セル日即チ手形ノ記載ヲ一見シテ明白ナルモノ是ナリ例ヘハ明治三十三年一

月十九日ニ拂出シタル手形ニ同年十月十五日ヲ支拂日ト記載シタル場合ノ如
シ復タ何等ノ説明ヲ要セス然レトモ満期日ハ必スシモ右ノ如ク確定セル日ヲ
以テ之ヲ定ムルコトヲ要セス或期間即チ手形振出ノ日附後或一定ノ日ヲ經過
シタル日ニ於テ手形金額カ支拂ハルヘキ旨ヲ記載スルコトヲ得例ヘハ前例ニ
於テ一月十九日ヲ振出ノ日トシ其日ヨリ八箇月ノ後ニ支拂ハルヘキモノナル
コトヲ記載スル如シ此場合ニ於テ更ニ決セサルヘカラサルモノハ何レノ日ヲ
リ起算シ何レノ日ヲ以テ満期日ト爲スヘキヤン點ナリ商法ニハ別ニ之ヲ規定
セサルヲ以テ其第一條ニ依リ民法ノ規定ニ從ハサルヘカラス(民法第一四〇條
乃至第一四三條)而シテ此點ニ關スル民法ノ規定ハ民法ニ於テ諸君ノ既ニ了知
セラルル所ナリト信スルカ故ニ重複ノ説明ヲ爲サズ唯一言注意ヲ要スルコト
ハ手形ノ満期日カ大祭日、日曜日其他ノ休日ニ當リ若シ其日ニ取引ヲ爲ササル
ノ慣習アルトキハ其翌日ヲ以テ満期日ト爲スヘキコト是ナリ(民法第一四二條)
爲替手形ノ満期日ハ一覽ノ日ト定ムルコトヲ得所謂一覽拂爲替手形ナルモノ
是ナリ此手形ハ讀ミテ字ノ如ク手形所持人カ手形ヲ呈示シタル日ハ即チ満期

日ナレモ若シ其日ハ全然手形債權者ノ意思ニ因リテ定マルヘキモノトセハ支拂人及ヒ償還義務者ハ實際上甚ダ迷惑ヲ感スヘシ何トナレハ斯ル手形上ノ債務ヲ負擔スル者モ幾年ノ後何時手形ノ支拂請求ヲ受クヘキヤ得テ洵ルヘカラスレハナリ詳言スレハ一覽拂爲替手形ノ満期日ハ手形債權者ノ隨意ニ定ムルコトヲ得ルモノトセハ何時支拂ヲ請求セラメルヤモ知ルヘカラスレテ不安心ナルノミナラス時効ノ期間モ極メテ不確定ト爲ル結果ヲ生スルノ嫌アルヲ免レス故ニ一覽拂ノ手形ト雖モ支拂ノ請求ヲ爲スヘキ時ニ於テハ制限ヲ附セサルヘカラス即チ振出人ノ意思又ハ法律ノ規定ニ依リテ定マリタル期間内ニ呈示スルコトヲ要スルモノトセリ(第四八二條第一項此規定ニ依レハ一覽拂爲替手形ノ債權者カ完全ニ其權利ヲ行使セントスルニハ手形ニ何等ノ記載ナキトキト雖モ振出ノ日ヨリ一年内ニ手形支拂人ニ呈示ヲ爲スコトヲ要ス且ツ若シ振出人ニ於テ一年ヨリ短キ呈示期間ヲ定メタルトキハ此期間ヲ遵守セサルヘカラス手形所持人カ右呈示期間内ニ呈示ヲ爲ササルトキハ如何ナル結果ヲ生スヘキカ曰ク所持人ハ支拂人ニ對シテハ縱令其特定ノ呈示期間又ハ一年ノ期間ヲ經過

ノ如キ即チ是ナリ又沖繩縣下ニモ此制度行ハレ居レリト云フ此他尙ホ我邦ノ或地方ニハ秣場ノ一村落又ハ數村落ノ所有ニ屬シ一箇人ハ之ニ對シ到底所有權ヲ得ル能ハサル制度行ハル是レ綜合主義ニ基キタルモノナリ然レトモ此綜合主義即チ共產主義ハ單ニ机上ノ議論トシテハ兎モ角一般ノ原則トシテ之ヲ實際ニ行フニ於テハ社會ノ道運ヲ妨タルモノト謂ハサルヘカラス近時獨佛等ノ諸國ニ在リテハ此主義ヲ採レル社會黨ナルモノアリテ其勢力甚タ熾ナリ現ニ獨國ノ如キハ國會議員ニシテ此社會黨ヨリ選出サレタル者四十餘人アリト云フ然レトモ彼等ノ主張スル所ハ到底之ヲ實行スヘカラス萬一強ク之ヲ實行セハ現今ノ社會國家ヲ全ク改造スルニ至リ結局人類ノ幸福ヲ増進スルコト能ハサルヘシ

(乙) 箇人主義

箇人主義ニ據レハ一箇人カ總テノ經濟上ノ財貨ヲ永久ニ所有シ完全ナル財產所有權ヲ有スルヲ以テ原則トス(一)

(二) 此主義ニ據レハ一箇人カ經濟上ノ財貨ノ總テノ種類ヲ永久ニ所有シ

完全ナル所有權ヲ有スルヲ原則トス此原則ハ一般ニ認メラルル所ナリ然レトモ此原則ニ例外アルハ各國ニ於ケル法律ノ往往認ムル所ニシテ國ニ依リ之ヲ認ムルノ程度大ニ異ナル所アルノミ彼ノ有利關係中或種類ノ如キハ此例外中著シキモノナリ又有利關係以外ノ財貨ニシテ此例外ニ屬スルモノ少カラス殊ニ近來ニ至リ例外ノ場合非常ニ増加シ來レリ

財產法カ人類其モノヲ所有權ノ目的物ト看做スヤ否ヤ之ヲ換言スレハ法律上人類ニ身體ノ自由アリヤ否ヤ頗ル重大ナル關係ヲ經濟上ニ有スルモノナリ然レトモ方今ノ文明諸國ニ於テハ既ニ奴隸半奴隸等モ全ク廢止サレ人皆身體ノ自由ヲ有シ權利ノ主體タルモ決シテ其目的タラサルニ至レルカ故ニ今日ノ經濟學ニ於テハ單ニ此主義ノ法律制度ヨリ起ル經濟上ノ關係ヲ講究スルノミヲ以テ足レリトス(C11)

C11) 財產法カ人類其レ自身ヲ所有權ノ客體トシテ認ムルヤ否ヤノ問題ハ獨リ經濟上ノミナラス社會上ニモ重大ノ關係アルモノトス其經濟上ニ於ケル關係ニ付テ言ヘハ若シ人類ヲ所有權ノ客體トシテ認メ之ヲシテ生産事業

ニ從事セシムレハ其者ノ勞働ハ恰モ器械的動物ノ活動ト均シキカ故ニ之ヲ人身ノ自由アル人類ノ勞働ニ比スレハ其結果ニ著シキ差異ヲ生スヘキモノナルヤ明カナリ往昔ハ人其モノヲ權利ノ目的物ト爲シ奴隸半奴隸等ノ制度存在セシモ現今ノ文明諸國ニ於テハ社會ノ裏面ニハ之ニ類スルモノ實際存在セサルニアラサルモ法律上人類ハ人身ノ自由ヲ有シ權利ノ主體タレトモ之カ目的物トシテ取扱ハルルコトナキニ至レリ故ニ經濟學ニ於テハ奴隸ノ如キ權利ノ目的物タル人類ノ存在セサル社會ノ有様ヲ述ブレハ足レルコトト爲レリ。

又現今ノ社會ニ在リテハ法令ノ他ノ點ニ於テ認ムル各階級ノ間ニ存在スル經濟上ノ能力ヲ區別スルカ如キハ實際毫モ必要ナキコトナレハ經濟學ハ彼ノ華士族平民ノ如キ階級ノ區別ニ付キ故ラニ論セスシテ國民皆之ヲ平等ノモノト看做シ其間ニ行ハルル經濟上ノ現象ヲ講究スルヲ以テ足レリトス(C12)

(C12) 往時ハ法令カ公ニ認メタル階級ノ區別ニ從ヒテ經濟上ノ能力ヲ異ニシタルコトアリ即チ武門武士ハ農工商ニ從事スヘカラストカ農ハ商ヲ爲ス

ヘカラストカ云フカ如ク階級ニ依リテ其從事スル所ノ經濟業務ノ種類ヲ區別シ又財產所有權ニ付テモ或階級ニ屬スル者ハ或物ヲ所有スルヲ得スト云ヘルカ如キ制限ヲ立テタルコトアリシモ今日ニ於テハ此ノ如キ區別存在セス他ノ點ニ於テハ法律カ認ムル華士族平民ト云フカ如キ區別アルモ是レ殆ト一種ノ形式的區別タルニ過キスシテ經濟上ノ能力ニ關係ナシ又貴族ニ付テハ經濟上ノ能力ニ多少ノ制限ヲ設ケ成ルヘク農工商等ノ生産事業ヲ爲スヘカラストスル國ナキニシモアラスト雖モ此等ハ例外ニシテ而モ之ニ關スル法律ヲ特ニ設ケタル國ハ殆ト之アルコトナシ故ニ法律上經濟的能カニ關シテハ四民平等ニシテ其間別ニ階級ノ存スルコトナシ唯經濟上ノ働ニ依レル區別即チ土地ヲ有シテ之ヲ生産事業ニ供スル者或ハ資本家又ハ勞動者ト云フカ如キ經濟階級又ハ社會階級ハ之ヲ區別シテ論セサルヘカラスト然レトモ是レ亦法律ニ依リテ能カヲ區別サルルニアラスシテ經濟社會ノ實勢ヨリシテ生セル所得分配額ノ多少ニ據レル階級タルノミ故ニ前ニ謂フ階級ト後ノ階級トハ全く別物ナリ

所有權發達ノ歴史ヲ按ズルニ往古ハ全ク綜合主義ヲ採リタルモノニシテ一箇人ノ私有財產ナルモノハ少シモ認メラレス總テノ財貨ハ悉ク社會全體ノ共有スル所ナリシ是ヲ以テ「ルーソー」流ノ學者ハ一箇人ノ權利ヲ非常ニ重シナカラ一方ニ於テハ社會ヲシテ綜合主義ノ行ハレタル原人時代ニ立戻ラシメント欲スルノ自家撞著ニ陷レルモノナリ(二四)

(二四) 所有權ノ發達ヲ歴史的ニ觀察スルニ往昔ハ專ラ綜合主義行ハレ一箇人ニハ所有權ナク所有權ハ獨リ共同團體ニノミ在リ即チ總テノ物ハ皆社會ノ共有ナリキ然ルニ社會漸ク進歩スルニ從ヒ人人ノ理想發達シ初ハ箇人カ日日要スル物即チ野蠻人ニ取リテ必要ナル刀槍類ニ付テ所有權認メラレ其ヨリ漸ク進ミテ此等ノ武器ニ依リテ得タル物ニ付キ又進ミテ住居ニ付キ所有權認メラレタルモノニシテ一箇人ノ所有權ニ關スル制度ハ決シテ初ヨリ自然ニ存在セル制度ニアラサリシナリ現今ニ於テモ亞弗利加又ハ太平洋中ノ小島ノ如キ未開ノ地ニハ箇人ノ所有權認メラレス又文明國ニ於テモ多少共有制度ノ遺物存在スル處アリ例ヘハ我國ニ在リテモ沖繩縣ノ如キハ一

個人ノ土地所有權ヲ認メス又東京附近ノ地方ニ在リテモ此ノ如キ事或ハ一都ノ土地ニ付テ行ハルル處アリ故ニルソー等ノ學者ハ往昔ノ社會ヲ尊ビテ黃金時代ナリトシ社會ハ此時代ノ有様ニ立展ルヲ以テ正理ニ合フモノナリトセリ然レトモ焉ンソ知ラン此論ハ彼等カ主張スル人權ヲ重ンスルノ主義ト矛盾スルモノナルコトヲ是レ歴史的ノ思想ニ乏シキ一ノ空想哲學的ノ議論タルニ過キスト謂ハサルヲ得ス

現今ノ社會ニモ向ホ綜合主義ノ思想全ク存セサルニアラス即チ鐵道電信電話ノ如キ極メテ新シキ事物ニ對シテマテモ此主義ヲ採ル者アリ此等ニ關スル國有論ノ如キ即チ然リ又一個人ノ所有權ヲ制限スル強制買收法ノ如キ規定アリ然レトモ此等ハ寧ロ例外ニシテ一般ニ謂フトキハ文明諸國ニ行ハルル財產制度ハ專ラ個人主義ニ基クモノナリ(二五)

(二五) 所有權ニ關スル制度ハ漸漸發達シ來リ現今ハ一般ニ個人ノ所有權認メラルルモ綜合主義全ク其跡ヲ絶テリト謂フヘカラス或事物ニ付テハ寧ロ新ニ綜合主義ヲ採ルニ至ルノ傾向アリ例ヘハ近世ノ發明ニ係ル電信電話鐵

道等ス之ヲ綜合主義ニ據レルモノ即チ國有ト爲スノ主義類リニ行ハレラツアルナリ現ニ電信ハ各國大概之ヲ國有ト爲シ電話ハ國ニ依リテ或ハ之ヲ民有ト爲シ或ハ國有ト爲スト雖モ其之ヲ民有ト爲セル國ニ於テモ更メテ之ヲ國有ト爲スヘシトノ議論アリ我國ノ如キハ此二者ハ始ヨリ國有主義ヲ採リ近時ニ至リ鐵道ノ如キモ亦之ヲ國有ト爲スヘシトノ議論アリ其他ニ尙ホ強制買收ナル事アリテ戰時若クハ事變ノ際又ハ鐵道布設工事等ノ場合ニ在リテハ當事者カ承諾セサルモ土地收用法ノ規定ニ據リテ強制的ニ土地ヲ收用スル事アリ是レ一私人ノ土地所有權ヲ制限スルモノニシテ綜合主義ニ基キタル制度ナリ此強制買收ハ管ニ土地ノミナラス動産ニ付テモ行ハルルコトアリ即チ軍隊ノ演習等ノ場合ニ糧食ヲ要スルトキハ當事者カ任意ニ買收モ應モサルコトアルモ之ヲ強制的ニ買上クル法令ノ存在スルカ如キ是ナリ此等ハ皆一個人ノ所有權ヲ制限スルモノニシテ其根據ヲ綜合主義ニ取ルモノナリ然レトモ全局ヨリ論スレハ此等ハ寧ロ例外ニ屬シ個人ノ所有權制度ハ原則トシテ一般ニ行ハレ居ルモノナリ而シテ此個人ノ所有權ヲ認ムルノ主

義ハ之ヲ正義トスヘキヤ否ヤノ問題ニ付テハ古ヨリ議論ノアリシ所ナリ古來一箇人ノ所有權ヲ正義トスル議論ノ根據トスル所ノ理由種種アリト雖モ之ヲ大別スレハ左ノ三說ナリトス

第一說 ハ獨逸人アーレンス氏ノ最モ善ク説明スル所ナレトモ實際ハ佛國ニ最モ多ク行ハレタル性法自然法ノ說ニシテ所有權ヲ人生固有ノ性質ニ基クモノナリト爲スモノナリ此說ニ據レハ人類ハ元來生レナカラニシテ天賦ノ自由ト天賦ノ權利トヲ有スル者ニシテ之ヲ保維シ獨立獨歩シテ經濟上ノ活動ヲ爲スヲ得ルハ所有權アルニ據ル是ヲ以テ所有權アリテ而シテ後チ始メテ人類ノ發達ハ完全ナルヲ得ヘク所有權ハ全ク天賦ニ基クモノナリト云フニ在リ(二六)

(二七) 此說ハ性法說又ハ自然法說トモ曰フヘキモノニシテ獨逸人アーレンス氏ノ詳シク説明スル所ナリ然レトモ此說カ實際最モ盛ニ行ハレタルハ(二八)氏ノ本國タル獨逸ニアラスシテ佛國ナリ佛國ニテハ此主義甚タ盛ニ行ハレ總テノ法律問題ヲ此主義ニ據リテ說カントシタリ彼ノボアンナード氏ノ如キモ此主義ヲ信シタル者ナレハ我國ノ法律中ニモ多少此主義ニ據リテ立案

動產移轉税ノ設定時期ヲ早クスル等ニ因リ二億九百萬法ヲ得ヘク之ヲ千八百五十八年マテ繼續シテ八億一千八百萬法ヲ得ヘク戰後其増税ヲ不便トシ其幾分ヲ廢止シ凡ソ六億四千萬法ヲ保存セントスレハ唯九億五千餘萬法ノ實額ヲ借入レ公債額而テ十五億法餘ニ増額シ(公債證書ノ發行高少クシテ其價格比較的高カルヘキヲ以テ)利子モ年年四千八百法ニテ足レリト云云
第二次ニ伊太利戰爭ニハ實收額五億千六百六十六萬七千八百七十八法ヲ借入レ公債ノ額面ハ八億五千五百七十三萬七千七百七十七法ニシテ利子ノ支拂額ハ二千五百七十七萬三千三百七十法ヲ増加セリ此場合モ舊税ノ復舊及ヒ二三ノ附加税ニ依リテ二億乃至二億五千萬法ノ公債ニテ此カ費用ヲ辨償スルコトヲ得タルモノナリ其後佛蘭西政府ハ千八百六十二年同六十四年同六十八年ニ三回公債ヲ募集シ其實收額ハ十三億三千萬法餘ニシテ額面價格ハ十五億二千八百萬法餘其利子四千五百八十五萬六千七百七十四法ナリ而シテ一方ニハ(一)ミリヤ戰爭後各種ノ租税ヲ廢止又ハ減率シ千八百四十八年ヨリ同六十五年マテ増減ヲ見ルニ減少ニ係ルモノ三億三千七百四十四萬九千法増加ニ係ルモ

ノ三億二千八百五十四萬四千九百十法ニシテ減少ノ多キコト八百餘萬法ナルニ反シ同期間内ニ政府ノ借入高ハ實收額三十五億餘法ニ上レリ故ニ此十七年間此増減ノ間ニ調和ヲ求ムレハ公債ノ半ハ之ヲ減少スルコトヲ得シヤ疑ヲ容レサルナリ蓋シ公債ヲ起スノ急アルニ際セハ有害ニシテ措クヘカラサル惡稅ニアラサル限リハ暫ク之ヲ保存シ後世公債ノ元利支拂ノ負擔ヲ減少スルコト最モ必要ノ方便ト謂ハスンハアラサルナリ

尙ホ租稅論者中ラツワブヒリゴト一ノ如キ極端ナル非常稅論ヲ主張スル者アレトモ事實全ク不能ノ空論タルヲ以テ又此ニ論述スルノ要ヲ見ス之ヲ要スルニ臨時費ノ支出カ豫期シ難キモノタルト否トヲ論セス公債ノ募集ハ一國ノ財産上止ムヲ得タル方法ニシテ且ツ租稅ニ比シテ便ナリトスル方法ナリ唯其效果ノ著シキ丈ニ濫用ノ弊生シ易ク其害毒亦甚ク大ナルヲ以テ能ク時ト場合ニ從ヒ慎重ナル攻究ヲ要スルコト言ヲ埃タス隨テ一朝非常ノ需要アルニ際シテハ事實問題トシテハ常ニ絕對ニ國債又ハ租稅ノ方法ニ依ルコトヲ避ケ兩兩相待チテ能ク其調和ヲ計リ以テ財政ノ整理ヲ期セスレハアラサル

ナリ

予ハ收支適合論ノ總論トシテ國家カ財政上臨時ノ支出ヲ要シ又之ヲ填補スル方法トシテ官有財産ノ拂下非常準備法租稅ノ新設又ハ増率及ヒ公債ノ借入又ハ募集ヲ列舉シ逐次其概念ヲ叙述シタリ而シテ今ヤ各國ノ財政ヲ通シテ公債ノ方便ヲ採ラサルハナシ而シテ前二者ハ今日ニ於テハ收支適合ノ方法トシテ殆ト認メラルルコトナキニ至リ租稅ハ其主タル效果ヲ有スル經常收入論ニ於テ既ニ攻究セラレタレハ是ヨリ收支適合ノ方法トシテ首要ナル公債其モノニ付キ此カ概念ヲ講述スル所アルヘシ

第二章 公債ノ觀念

第一節 公債發達ノ順序

第一款 緒 論

公債ハ貸財ニ關スル社會現象ノ一タルヲ以テ其發達ハ又常ニ社會ノ變遷ニ隨伴スヘキコト自明ノ理ニ屬ス而シテ社會ノ變遷ハ政治ニ法律ニ經濟ニ總テ歸

綜 紛 糾 ヲ 極 ム ル カ 故 ニ 公 債 ニ 於 テ モ 此 カ 沿 革 發 達 ニ 至 リ テ ハ 固 ヲ リ 精 確 ヲ 期 ス ル コ ト 能 ハ ス 今 公 債 ノ 起 源 發 達 ヲ 通 觀 ス ル ニ 所 謂 經 濟 上 ニ 於 テ 實 物 經 濟 時 代 ト 謂 ヒ 漁 獵 時 代 ト 謂 ヒ 牧 畜 時 代 ト 謂 ヒ 自 然 時 代 ト 謂 ヘ ル 當 時 ニ 在 リ テ ハ 信 用 ノ 觀 念 未 タ 發 達 セ ス 公 債 ノ 制 亦 之 ヲ 見 ル コ ト ヲ 得 ナ リ シ モ 農 業 時 代 勞 力 時 代 貨 幣 經 濟 時 代 ニ 變 遷 シ 來 ル ニ 從 ヒ 漸 次 其 發 生 ヲ 來 シ 彼 ノ 公 私 混 淆 セ ル 公 債 特 定 人 ニ 對 ス ル 公 債 短 期 公 債 擔 保 附 公 債 ヲ 見 ル ニ 至 レ リ 而 シ テ 信 用 經 濟 時 代 商 工 業 時 代 資 本 時 代 換 言 ス レ ハ 現 時 文 化 ノ 發 達 セ ル 諸 國 ニ 於 テ ハ 公 債 ハ 一 層 急 激 ナ ル 發 達 ヲ 來 シ 無 擔 保 ノ 國 際 的 永 久 ノ 公 債 ヲ 見 ル ニ 至 レ リ 公 債 ノ 發 達 ハ 各 國 ノ 文 化 ノ 異 同 ニ 隨 伴 ス ル モ ノ ナ ル カ 故 ニ 固 ヲ リ 時 代 ヲ 以 テ 絕 對 ノ 標 準 ト 爲 ス コ ト 能 ハ サ ル モ 今 公 債 ノ 債 務 關 係 ノ 當 事 者 及 ビ 體 様 ヲ 標 準 ト シ テ 公 債 發 達 ノ 順 序 ヲ 說 述 ス ヘ シ

第 一 款 債 務 關 係 ノ 當 事 者 テ 標 準 ト ス ル 場 合

第 一 債 務 者 ヲ 標 準 ト シ テ 觀 察 ス レ ハ 元 首 其 他 主 權 ヲ 把 持 ス ル 者 カ 各 自 一 私

人 ト シ テ 起 債 ス ル ト 國 家 ヲ 代 表 シ テ 起 債 ス ル ノ 別 ア リ 換 言 ス レ ハ 主 權 者 自 體 カ 債 務 者 タ ル 場 合 ト 國 家 カ 債 務 者 タ ル 場 合 ノ 別 ア リ 勿 論 前 者 ノ 場 合 ト 雖 モ 主 權 者 ハ 其 債 務 辨 濟 ノ 責 ニ 供 セ ン カ 爲 メ 其 主 權 ヲ 行 使 シ テ 國 民 ヲ 賦 課 徵 收 ス ル ヲ 以 テ 例 ト 爲 ス カ 故 ニ 結 局 國 民 全 體 カ 債 務 ヲ 負 擔 ス ル コ ト ト 爲 ル ヘ キ モ 正 面 ヲ リ 觀 察 ス レ ハ 其 債 務 ノ 發 生 及 ビ 消 滅 ニ 付 キ 國 民 力 豫 メ 之 ヲ 承 認 ス ル ト 否 ト ノ 別 ヲ 存 ス ル モ ノ ト ス

事 實 國 務 ノ 費 途 ニ 供 セ ラ レ タ ル 債 務 カ 必 ス シ モ 公 債 ト 謂 フ ヘ カ ラ サ ル ト 共 ニ 主 權 者 カ 起 債 セ ル 債 務 モ 亦 必 ス シ モ 私 債 ト 謂 フ ヘ カ ラ ス 古 來 元 首 カ 起 債 セ シ 例 甚 タ 多 ク 而 モ 其 大 部 ハ 單 ニ 元 首 自 體 ノ 需 要 ヲ 充 タ ス ニ 過 キ ス シ テ 純 然 タ ル 私 債 ト 見 ル ヘ キ モ ノ 多 キ モ 軍 事 費 ト シ テ 起 債 セ ル 場 合 ノ 如 キ 縱 令 元 首 一 箇 ノ 意 見 ニ 依 リ テ 企 テ ラ ル ル モ 仍 ホ 其 國 民 ヲ 保 護 シ 其 領 土 ヲ 擴 張 シ 其 國 威 ヲ 發 揚 ス ル 等 公 共 的 ノ 性 質 ヲ 帶 フ ル モ ノ ニ シ テ 公 債 タ ル ヲ 妨 ケ サ ル モ ノ ア リ 國 家 ノ 觀 念 發 達 シ 公 私 ノ 別 明 カ ナ ル ニ 隨 ヒ 國 務 ノ 費 途 ニ 供 セ ラ ル ヘ キ 債 務 ハ 元 首 自 體 ノ 私 債 ト 其 間 ニ 盡 然 タ ル 區 別 ヲ 生 ス ル ニ 至 リ 公 債 ノ 大 部

ハ國民ヲ代表スル議會ノ協賛ヲ經由シ所謂眞正ナル公債ハ立憲國ニ於テ始
 マテ之ヲ見ルヲ得ヘシト云フニ至レリ故ニ債務者ヲ標準トスル場合ニハ債
 務者カ單一ニ箇人トシテ起債シ公私ノ別明カナラザリ時代ト債務者ハ國
 民全體ヲ代表シテ起債シ公私ノ別明カニ爲リシ時代トニ分類スルコトヲ得
 ヘキナリ

第二 債權者ヲ標準トシテ觀察スレハ債權者カ特定人タル場合ト不特定人タ
 ル場合ニ分類スルコトヲ得ヘシ數世紀前マテハ公債ハ常ニ特定人ニ對シテ
 借入レラレシモノニシテ我邦維新前諸侯ノ起債セルト其趣ヲ一ニシ殊ニ伊
 太利獨逸等ノ諸國ニ在リテハ都市ヨリ借入レタル場合甚タ多シ所謂公債借
 入ノ時代ニシテ當時租稅又ハ官有財產等ノ物上擔保ヲ附スルヲ例ト爲セシ
 ニ拘ラス特定人ヨリ借入レシハ信用ノ發達幼稚ナルコトヲ證スルモノニシ
 テ近時一方ニハ國家ノ信用遞増シテ國債ノ真相一般ノ認ムル所ト爲リ一方
 ニハ之ニ應スヘキ資本ノ増殖又著シク増加セシヲ以テ起債者ハ特定人ヲ指
 定シテ格別ニ妥協スルノ要ヲ見ス政府ハ其契約ノ條件ヲ豫定シテ廣ク之ヲ

世人ニ公示シ經濟界ノ自由競争場裡ニ放任シテ需要供給ノ原則ニ從ヒ各箇
 人ノ利己心ニ訴フルヲ以テ足レリト爲スニ至レリ即チ從來先ツ當事者ヲ定
 メテ後契約ノ條件ヲ定ムルニ反シ契約ノ條件ヲ豫定シテ當事者ノ如何ヲ省
 ミサルニ至レリ其後不特定人ニ對シテ起債スル場合即チ公債募集ノ場合ニ
 モ當初ニ在リテハ自國民ニ限ルコトヲ例ト爲シ所謂外國債ノ募集ハ經濟上
 非議スヘキモノナルノミナラス政治上絕對ニ認許スヘカラサルモノトシテ
 理論實際共ニ容レザルルコトナカリシモ文化ノ發達ニ伴ヒ外國債ノ必スシ
 モ忌ムヘキモノニアラサルコト一般ニ公認セラレ領土内ノ外人ノミナラス
 領土外ノ外人ニ對シテモ汎ク募集セラルルニ至リタリ蓋シ公債ヲ一般人民
 ヲリ募集スルコトヲ得ルニ至ルハ同時ニ其國費ノ齎來ニ比シテ著シク遞増
 セルコトヲ示シ又之ニ應スヘキ資金ノ豊富ナルコトヲ示スモノナリ故ニ公
 債ノ額ハ少クトモ其數字ノ上ニ於テ巨大ノ増加ヲ示シ一私人ニシテ又之ニ
 應シ得ヘキモノナキニシモアラサレトモ一局都ヨリ巨額ノ資金ヲ移轉セン
 コトハ經濟上喜フヘキ現象ニアラサルノミナラス又一二人ノ巨額ノ債務

關係ニ干與スルコトハ政治上ノ弊害ヲ醸成シ易ク一般ノ人民殊ニ各種ノ階級ニ通シテ應募ノ區域ヲ擴充スルコトハ社會問題トシテ寧ろ政府カ進ミテ取ルヘキ方策タリ現時公債募集ノ條件中其拂込時期ノ度數及ヒ其期間一時拂込額ノ多少ニ付キ大ニ斟酌ヲ加フルモノ亦此原因ニ因ルモノナリ故ニ債權者ヲ標準スル場合ニハ特定人ニ依ル時代ト不特定人ニ依ル時代ニ別ラコトヲ得ヘク之ヲ其債權者ノ國籍ヨリ觀テ内國債時代外國債時代ニ分類シ又其債權者ニ對スル起債ノ方法ニ依リ國債借入時代國債募集時代ニ分類スルコトヲ得ヘキナリ

第三款 債務關係ノ體様ヲ標準トスル場合

第一 償還時期ノ長短ヲ標準トシテ觀察スレハ一時若クハ短期ノ場合ト永久又ハ長期ノ場合トアリ即チ往時信用幼稚ナリシ時代ニ在リテハ短期ニアラスンハ起債ノ目的ヲ達スルコト克ハサリシモ政府ノ信用遞増シ信用經濟發達スルニ隨ヒ償還期限ノ延長ハ却テ當事者雙方ノ希望スル所ト爲リ近時發

達セシ國ニ在リテハ無期ノ公債ヲ認ムルニ至レリ故ニ償還期限ノ長短ヲ標準トスル場合ニハ短期又ハ流動公債時代ト長期又ハ確定公債時代ニ分類スルコトヲ得ヘキナリ

第二 擔保ノ有無ヲ標準トシテ觀察スレハ擔保ヲ附スル場合ト擔保ヲ附セザル場合トアリ往時政府ノ信用幼稚ナリシ時代ニ在リテハ擔保ヲ以テ債務成立ノ常素トセハ固ヨリ自然ノ理ニシテ或ハ租稅其他ノ財源ヲ以テシ或ハ官有財産ヲ以テシ時ニハ他國ノ保證ニ依リテ對人擔保ヲ附セシ場合アリ然レトモ現時ニ在リテハ財政紊亂セル特種ノ國ヲ除キテハ皆無擔保ヲ例ト爲スニ至レリ故ニ擔保ノ有無ヲ標準トスル場合ニハ擔保附時代ト無擔保時代ニ分類スルコトヲ得ヘキナリ

此他或ハ利子ノ有無證書記名ノ有無花札ノ有無課稅物件ト爲スト否ト、強制募集ノ性質ヲ有スルト否ト、生産的ナルト不産的ナルト、財政上行政上ノ公債ヲ認ムルト否ト等ニ由リ又幾種ノ分類ヲ爲スコトヲ得ヘキモ徒ニ枝葉ニ涉ルノ嫌ナキニアラサルヲ以テ之ヲ省略ス

第二節 公債發達ノ歴史

第一款 公債ノ發生時期

公債ノ發生時期トハ上古ニ於ケル所謂公私混淆セル時代ニシテ君主諸侯ハ先ツ特定人ヲ指定シテ金額擔保期間利子等ノ條件ヲ協定シ借用證書ヲ交付セシハ前述スル所ノ如シ然レトモ固ヨリ人民ノ權利義務カ未タ充分ニ保障セラレタル時代ナリシヲ以テ附隨條件ノ變更ハ固ヨリ償還ノ義務スラ之ヲ全ウセザリシコト其例多ク我國徳川家時代ノ如キモ所謂御用金トシテ無擔保ヲ以テ借入レ時ニ償還ノ義務ヲ果ツサリシ者亦之ナキニアラス然レトモ原則トシテ常ニ諸侯ハ大坂ノ金主ヨリ米麥等ノ物品ヲ抵當トシテ借入レシモノニシテ其詳細ハ後ニ再述スル所アルヘシ〔國家學會雜誌第三百三十七號末松博士ノ「封建時代ノ財政參照」

第一期ノ末葉ニ當リテ國債ト性質ヲ異ニセル今日ノ地方債ト見ルヘキモノ又發生セリ彼ノ「マーク」即チ市場ハ紀元第九世紀頃ヨリ漸次永久ニ開設セララル

ヲ例ト爲スニ至リ封建制度カ兵器ノ改良交通ノ發達等ニ由リ漸次其衰兆ヲ現ハシ地主ノ權力ハ漸次商業家ノ手ニ遷リ來ルヤ舊時ノ「マーク」ハ「フライ」スラツト即チ自由都市トシテ漸次諸侯ノ羈絆ヲ脱シ伊太利ノ諸市來因河沿岸ノ都市ハ遂ニ純然タル獨立ノ團體トシテ相割據スルニ至レリ此等ノ都市ハ當初實財ヲ貢獻シテ自治ノ權ヲ購ヒ尙ホ時時王侯ヨリ多額ノ貢獻ヲ強制セラレ一時ノ急ニ應スル爲メ都市自ラ起債セシコトアルモ後純然タル獨立市ト爲ルニ至リテハ都市ノ費途ニ充ランカ爲メ又屢起債セリ或意味ニ於テハ今日ノ地方債ノ權輿ヲ爲スモノニシテ獨逸ニ於ケル自由市ノ市債ハ獨逸ノ統一ト共ニ多ク國債ニ變形シタリ而シテ其諸侯ニ屬スル負債ノ近時中央集權ノ實舉ルト共ニ國王ノ負債即チ國債ト變セシモノ其例甚タ多ク我邦ニ於テモ維新ノ改革ト共ニ明治六年三月第十五號布告ヲ以テ新舊公債證書發行條例ヲ制定シ明治五年申年マテノ間從來舊諸藩縣ニ於テ内國人民ヨリノ通債ヲ改メテ政府ノ公債トシ之ヲ大藏省ニ引受ケ其債主ニハ公債證書ヲ交付シ定期ヲ逐フテ之ヲ償却スルコトト爲レリ此法ハ明治八年五月第九十五號布告ヲ以テ改正セラレ弘化元年

辰年ヨリ慶應三丁卯年マテ諸藩ニ於テ借用シタルモノヲ舊公債ト稱シ明治出
戊辰年大政更始以後明治四辛未年七月廢藩マテ及ヒ明治五壬申年マテノ間舊
諸藩ニ於テ借用シタルモノヲ新公債トシ舊公債ハ無利息五十八年屬新公債ハ
四分利附二十二年屬トシテ之ヲ償却スルコトト爲セリ

第二欸 公債變遷ノ時期

公債變遷ノ時期トハ耶蘇紀元十六世紀ヨリ第十九世紀ノ初期ニ至ル間ヲ指ス
モノニシテ公債カ王侯ノ公私ヲ混淆セシ古代ヨリ現時ニ至ル變遷時期トス此時
代ニ至リテハ君主私債ノ觀念除却サレ一方ニハ貨幣經濟ノ發達ヲ來セシヲ以
テ一般ノ信用遞増シ管理ノ方法モ序ヲ逐フテ定マリ確定公債無擔保公債等認
メラルルニ至レリ然レトモ前世紀ニ至ルマテ純然タル公債ノ募集ヲ實行セシ
「英吉利和蘭等數箇國ニ過キス佛蘭西ノ如キハ路易十四世ハ一世ヲ軍事ト奢
侈ニ盡セシヲ以テ佛蘭西革命ハ同時ニ財政上ノ革命ヲ示シ著シク公債ヲ遞増
セシモ皆流動國債ニ屬スルモノナリキ露西亞モ亦カザリ」三世以後國費當ニ

相償ハス中央銀行ノ借入ヲ以テ一時ヲ塗抹シ今世紀ノ初ニ至リ始メテ確定公
債ト爲ルニ至リ一方ニハ公債委員ハ內在來ノ公債ノ整理外外國市場ニ起債ノ
術ニ當リ今世紀ノ三十年ニコラス第一世ノ時ニ至リ漸ク全般整理ノ緒ニ就ク
ニ至レリ英國ニ至リテハ其第二期ノ歴史ハ正ニ第三期ノ發達ヲ見ルモノナル
ヲ以テ次ニ併述スル所アルヘシ

第三欸 公債發達ノ時期

公債發達ノ時期トハ主トシテ第十九世紀ノ後半ヲ指スモノニシテ此時期ニ於
ケル發達セル公債ハ其起債及ヒ償還ニ付キ國民カ豫メ承認ヲ與フルモノナル
コトハ前述スル所ノ如シ即チ流動公債ノ如ク短期ニシテ其額亦比較的僅少ナ
ルモノニアラサル公債ハ單ニ大藏大臣ヲシテ自己ノ責任ヲ以テ自由裁量ノ餘
地ヲ存セシムヘキモノニアラサルヲ以テ今世紀ノ初ヨリ國家ノ觀念ノ變遷ニ
伴ヒ法律思想亦一變シ此起債及ヒ償還ハ之ヲ全然行政官ノ手ニ放任セス立法
部ノ監督ヲ要スルコトト爲レリ

講述ノ序次トシテ一言ヲ費スヘキハ我憲法ト關係ナリトス蓋シ國債ノ募集及ヒ償還ハ彼ノ租稅ノ新設又ハ増率ノ如ク公法上ノ關係ニアラスシテ純然タル私法上ノ法律行為ナリ單ニ行政行為ナリ隨テ法理上尨モ法律ヲ以テ規定スルノ要ヲ見ルコトナシ我憲法第六十二條第一項ハ一方ニ新ニ租稅ヲ課シ及稅率ヲ議更スルハ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘシト規定セルニ拘ラス同條第三項ニ於テ

國債ヲ起シ及豫算ニ定メタルモノヲ除ク外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スハ帝國議會ノ協贊ヲ經ヘシ

ト言ヒテ法律ヲ以テスヘント言ハサルハ即チ之カ爲メナリ隨テ今日マテノ實例ニ於テ常ニ法律ニ依ルハ憲法當然ノ結果ニアラサルト共ニ又國債ノ性質ニ於テ尨モ爲メニ變易セラルル所ナキハ言フ俟タズ國債ノ募集ニ付テハ唯議會ノ協贊ヲ經ルヲ以テ足レリトス隨テ公安ヲ保持スル爲メ緊急ノ需要アル場合ハ憲法第七十條ニ依リ此制限ヲモ踰越スルコトヲ得ヘシ日清事件ニ於ケル軍事公債ノ如キハ即チ第七十條ニ依ル財政上必要ノ處分トシテ議

會閉會中募集セラレシモノナリ國債ノ募集又ハ償還ニ付キ法律ヲ以テ規定スルハ單ニ國債ノ募集又ハ償還ナル私法行為ヲ爲スコトヲ政府ニ委任セルコトヲ表ハスニ過キズ唯其同時ニ規定セル契約ノ豫定條件等ニ於テ法律ニ依ルノ結果トシテ普通ノ私法ト異ナル規程ヲ設定スルコトヲ得ヘキハ復タ言フ俟タサル所ナリトス

上述スルカ如ク國債ノ募集又ハ償還ニ付テハ必スシモ租稅等ノ公法上ノ行為ト異ナリテ立法事項ト爲スコトヲ要セザルモ其金額ノ巨大ニシテ且ツ其期限モ長期ニ屬スルモノハ政府ノ財政上率チハ一國ノ經濟國民ノ負擔ニ重大ナル利害關係ヲ有スルモノナルヲ以テ議會協贊ヲ經ヘキモノトセリ即チ國債其モノノ眞相カ形式上ニ於テモ明カニ認知セラルル所以ニシテ一方ニハ國債ノ濫用ヲ防遏スルト共ニ一方ニハ國債其モノノ信用ヲ著シク擴充セラレタルモノト謂フヘキナリ

英國ハ前世紀ヨリ既ニ公債ニ付キ十分ノ發達ヲ示セリ「フレンヂ」公「ウキリヤ」ム「カ」ス「チ」ユ「ワ」ルト朝ノ餘弊ヲ承クテ財政困厄ノ機ニ際スルヤ公債ノ募集

ニ付キ之ヲ議會ニ提出シテ其承諾ヲ求メ爾後常ニ一國債ヲ起ス毎ニ法律ヲ以テ其手續ヲ定メ伸縮力ノ大ナル所得稅ヲ以テ此カ償還ノ擔保ニ充テ時宜ニ應シテ之ヲ増減シ其募集ノ手續事務ノ取扱等ハ一英國銀行ニ委任セタリ其詳細ハ別ニ公債募集ノ章ニ於テ述フル所アルヘシ又其償還ノ方法ニ付テハ所謂誠債基金法ヲ取ルモノニシテ其可否如何ハ又別ニ公債償還ノ章ニ讓ルヘシ之ヲ要スルニ英國ハ公債ノ歴史ニ於テハ最早ク發達セル國ニシテ所謂立憲國ニ於テ始メテ見ルコトヲ得ヘキ眞ノ公債ハ其權輿ヲ英國ニ發セリ而シテ實際ニ於テモ英國ノ公債ノ歴史ハ其誠債基金法ニ依ル等ノ爲メ多少ノ非難ヲ受ケサルニ非サルモ歐洲列國ニ於テ好況ヲ呈スルモノニシテ千八百二十年頃ハ其利子支拂額三千二百五十萬磅ニ上リ國費總額ノ五分ノ三ヲ占メシモ千八百五十二年ニハ遙ニ下リテ二千八百萬磅ト爲リ千八百八十六年ニ至リテハ二千二百萬磅ト爲リ國費總額ノ三分ノ一ヨリ四分ノ一ノ間ニ下ルニ至リ其公債總額ノ如キモ千八百八十年ニハ三十六億弗ニ近カリシモ千八百九十年ニハ三十三億弗餘ニ減スルニ至レリ

佛蘭西ノ公債ニ對スル政策ノ概要ハ租說ト公債ノ一節ニ於テ前通セルカ如シ殊ニ普佛戰爭後九十億フランクヲ募集ヲ爲セシヨリ公債ノ額ハ次第二増加シ千八百八十年ニ四十二億餘弗ナリシモ千八百九十年ニハ四十四億八千萬弗ニ上リ其利子支拂額ハ千八百二十年ニハ一億四千八百萬馬克ナリシモ千八百八十二年ニハ七億九千萬馬克ニ増加セリ公債負擔ノ分頭額ニ於テモ其總額ト等シク列國中第一位ヲ占ム然レトモ是レ單ニ財政上ノ措置ノ誤レルノミナラス政治上ノ原因多キヲ占ムルヲ以テ絕對ニ非議ヲ容ルヘカラサルカ如シ且ツ其公債ノ募集ニ付テ大ニ國民的觀念ヲ交ヘ成ルヘク其一時拂込額拂込期限等ヲ斟酌シテ總テノ階級ニ通シテ應募ノ便ヲ計リ中産以下ノ者ヲシテ貯蓄ノ觀念ヲ養成セシメ大ニ社會問題ノ融和ヲ圖ルハ喜フヘキ趨勢ニシテ我邦ノ如キモ亦此主義ヲ執ルモノノ如シ唯今日佛蘭西ノ公債カ既ニ其總額ニ於テ又分頭額ニ於テ第一位ヲ占メ今後尙ホ増加シテ止マサルハ慨嘆スヘキ事ナルト共ニ之ヲ伊太利埃太利露西亞等ニ比シ尙ホ幾層ノ好望ヲ繫クヘキ理由ノ存スルアリ

二ハ其國民的募集方法ヲ實行スルコトヲ得テ未ダ換露ノ如ク內國ニ於テ殆ト

募集ノ實ヲ舉タルコトヲ得サルコトヲ得サル如キ窮境ニ陥ラサルコトナリ
ハ將來私設鐵道ノ漸次國家ノ所有ニ歸屬スルニ因リ其官業收入ニ依リ著シク
公債額ヲ削減スルコトヲ得ヘキコト是ナリ其好實例ハ次ニ掲タル普瀋西ノ公
債ニ於テ之ヲ知ルコトヲ得ヘシ

普瀋西ノ公債ハ英國ト並立シテ最モ好況ヲ呈スルモノナリ即チ千八百四十八
年ニハ其公債總額一億五千八百五十萬ターレルニシテ歐洲列國ニ比シ其額僅
少ナルモノナリシモ一千八百六十六年ニ至リテ二億九千萬ターレルニ増加セ
リ然レトモ此増加ノ比例ハ他國ニ比シテ小ナルノミナラス其増加額一億三千
百五十萬ターレル中一億二千四百三十三萬ターレルマテハ官設鐵道ノ敷設ト
私設鐵道ノ買上ニ支辨セラレタルモノナリ蓋シ普瀋西公債ノ募集上他國ト異
ナルハ國有財産ヲ以テ抵當ニ充ツルニ在リ其國有山林田地並ニ鐵道ノ收入ハ
國庫ノ收入ノ三分ノ一ヲ占メ優ニ公債ノ利子支拂元金償還ノ支途ニ充テテ餘
アルニ至レリ其統計ノ概表ハ次ノ如シ

年次	人口	公債額	利子支拂額
			國有鐵道ノ 純收ノ入

一八八一	百萬	一〇七六	百萬馬克
一八八二	二七三	一四一九	百萬馬克
一八八六	一九九五	二〇一七	
一八八七	二八三	一六六一	
一八八八	四〇七三	二七八六	
一八九〇	四四五七		

上述ノ如キ好景ヲ呈スルヲ以テ獨逸ノ公債ハ三分半ノ利附ニテ平價ヲ維持セ

埃太利ノ公債ハ紙幣公債銀貨公債金貨公債等ノ諸種ヨリ成リ貨幣ノ價格區區
ナルヨリ公債ノ募集モ貨幣ノ種類ニ依リテ自ラ其間ニ異同ヲ生シ今日ニ於テ
ハ五分利附ニテ猶ホ平價ヲ持スルコト能ハス其公債モ千八百八十年ニハ二十
二億二千餘萬弗ナリシモ千八百九十年ニハ二十八億六十餘萬弗ニ増加シ千八
百二十年ノ利子支拂額ハ三千百萬馬克ナリシモ千八百八十二年ニハ三億九千
五百萬馬克ニ遞増セリ

露西亞モ亦前述スルカ如ク正金公債紙幣公債アリ紙幣ノ價格ハ漸次下落シ今
日ハ公債委員ノ制ヲ設ケ外國債ニ依リテ漸ク財政一時ノ整理ヲ濟スモノノ如

シ其公債額モ千八百八十年ニハ三十三億餘萬弗ナリシモ千八百九十年ニハ三十五億弗ニ近ツキ其利子支拂額ノ如キモ千八百二十年ニハ二千三百萬馬克ナリシモ千八百八十二年ニハ六億四千萬馬克ニ遞増スルニ至レリ其不換紙幣發行ニ基ケル財政ノ非況ハ埃佛伊諸國ノ實例ト共ニ公債分類ノ章ニ於テ述フル所アルヘシ

以上講述スル所ニ據リ公債ノ發達ニ對スル沿革變遷ノ梗概ヲ示セリ即チ公債ノ實ニ前世紀ノ末葉ニ始マリ今世紀ニ於テ著シク發達ヲ見即チ千八百二十年ニ在リテハ歐洲列國ノ公債ノ利子ニ支拂フ所十一億二千五百萬馬克ニ過キサリシモ千八百六十五年ニハ正ニ之ニ倍シ千八百八十五年ニハ四倍ニ上リ其公債總額千〇八十四億三千百萬フランクノ巨額ヲ見ルニ至レリ今年度ニ依リテ公債増加ノ統計ヲ見ルニ次ノ如シ

年 度	公債元金 億弗
一七九四	一五
一七九三	二五

一八二〇 七七五
 一八四八 八六五
 一八六二 一二七五
 一八七二 二二二〇五
 一八八二 二六九七

尙ホ最近ノ調査ニ係ル歐米各國ノ公債總額利子額及ヒ其各分頭額及ヒ明治二十六年度ヨリ三十年度ニ至ル我國ノ國債地方債及ヒ政府紙幣ノ數額ヲ示セハ次ノ如シ

國 名	公債總額及ヒ利子額ノ單位		
	各分頭額ノ單位	公債總額	分頭額
佛 蘭 西	一、三三四、七七四、三〇〇	三、三二五、一〇〇	五〇、一三〇、〇〇〇
英 吉 利 本 土	六、三三八、三六六、四八二	一、五一一、七八〇	二五、〇〇〇、〇〇〇
伊 太 利	四、九一一、七六七、三〇〇	一、五一一、一六〇	二、三二九、八五六五
			一、四九九

露西亞	四二二,七九二,〇〇〇	三,一九七	一八〇,一五九,〇〇〇	三,五
合衆國	三六〇,七四二,六〇〇	五,一五二	五,五四八,〇〇〇	二,五
西班牙	二八四,〇〇〇,〇〇〇	一六,三四	一五,九七〇,〇〇〇	一八〇
匈牙利	二六〇,四九五,〇〇〇	一一,一六六	一三,一二八,〇〇〇	一三,一一
奧地利	二四五,〇一〇,〇〇〇	五,一八六	一〇,五二四,〇〇〇	五,一
土耳其	一五七,〇三八,四〇〇	六,一九五	二,〇三三,一〇〇	一,一〇
葡萄牙	一二七,〇二六,〇〇〇	二,五三〇	四,二〇九,一〇〇	一,六八
奧地利	一二二,五八五,七〇〇	五,二二五	六,二一五,〇〇〇	五,一一
獨逸	一一三,〇六二,〇〇〇	二,三三三	六,六九三,〇〇〇	二,六
白耳義	一〇二,一六三,七〇〇	一,五一一,八	四,六六六,一〇〇	一,三,一〇
和蘭	九二,一八,〇〇〇	一,八五五	二,七二〇,三〇〇	一,一七
日本	四一〇,三三,五一一	一,九三三	二,九〇〇,五〇〇	一,四
希臘	二二,〇〇〇,〇〇〇	八,二二三	一,〇〇〇,〇〇〇	八,二
瑞典	一五,九七一,三〇〇	三,三四〇	五,三八〇〇〇	二,三三

丁抹	一一,五六六,二〇〇	五,五一一〇	四〇,五五六三	三,八
諾威	一〇〇,七四四,〇〇〇	五,〇八	三,三七五〇〇	三,三
瑞西	三三五,五七〇〇	一,一〇九	一六,九七三〇	一,一一
總額	四,七五三,九四三,五九九		一九二,五九二,三三八	

●日本公債統計表

年 度	國 債	分頭額	政府紙幣	分頭額
三十年度	四二一,二四五,九二八	九,七四	六,九九五,三七三	一,一六
二十九年度	三八三,三三五,一三四	八,九九七	九,〇四五,〇八二	二,一
二十八年度	三七一,七五九,九九五	八,七七九	一〇,六七九,二三六	二,五
二十七年 度	二九五,八〇七,二八三	七,〇七	一二,七九三,八三三	三,〇
二十六年 度	二六七,八一四,八五一	六,四七	一五,七〇四,七七三	三,七
年 度	國債政府紙幣合計	分頭額	地 方 債	分頭額
三十年度	四二八,二四一,三〇一	九,九九〇	一四,一五三,三七六	四,四
二十九年度	三九二,三八〇,二六	九,一八	一〇,九一六,七九〇	四,〇
二十九年度	三九二,三八〇,二六	九,一八	一〇,九一六,七九〇	四,〇

二十八年度	三八、四三九、三三一	九〇四	一〇、三三二、八一	三九、二六七、〇四二
二十七年	三〇、八六〇、一、二一九	七三三	一〇、〇六二、九一三	三一、八六六、四〇三
二十六年度	二八、三五一、九六二、四六八	五	九、一六七、〇四七	二九、二六八、〇〇〇

第三節 公債發達ノ原因及ヒ條件

第一款 公債發達ノ原因

第一項 消極的原因—國家觀念ノ一變

封建制度壞廢シテ中央集權ノ行ハルルヤ經濟學派ニ於テモ歷史派勃興シ從來ノ放任主義ノ反動トシテ「リスト」如キ國家主義ヲ唱道シ法律學派ニ於テハ自然法學派破レテ歷史法學派勃興シ公法ノ觀念發達シ文化ノ普及ト共ニ國家ノ政務ハ頓ニ廣キヲ加フルニ至レリ即チ國家ハ管ニ消極ニ人民ノ危害與允ヲ除去スルニ止マラス積極ニ人民ノ幸福安寧ヲ増進スヘキモノナリトシ殊ニ近時社會問題ノ影響トシテ國家社會主義ヲ鼓吹スル者相次キ國家ハ一方ニハ植牧行政ノ範圍ヲ擴張シテ貧民救助法、強制保險、強制教育、貧民貯蓄法等下級人民ノ

保護改善ノ策ヲ畫シ一方ニハ社會一部ノ階級ヲシテ重大ナル權力ヲ獨占セシメテラシメメンカ爲メ公共の事業ニシテ利害關係ノ重大ナルモノハ之ヲ政府ノ手裡ニ收ムル等國家萬般ノ行政著シタ多キヲ加フルニ至レリ殊ニ近時各國經費ノ大部分ヲ占メ財政ノ經營上重大ナル關係ヲ有シ公債ト相聯結シテ朝野ノ人士ヲシテ此カ措置ニ頭顱ヲ悩マサシムルモノヲ軍事費ト爲ス蓋シ佛蘭西革命カ自然法ヲ打破シ放任主義ヲ屏去セシメ人權主義ヲ壞廢シ歸納の歷史的學派ノ勃興スルト共ニ中央集權ノ實學ルヤ忽チ那破翁一世覇ヲ稱ヘテ歐洲ヲ蹂躪シ軍旗ノ向フ處列國ヲ席卷シ中道ニシテ霸業地ニ墜ツルヤ國民の觀念到ル處ニ勃興シ軍事上ノ設備維持ノ爲メ鉅萬ノ資ヲ投シ列國互ニ相對峙シテ權力ノ平均ハ軍器ノ改良兵員ノ増加ヲ促シ益々其額額ヲ遞増スルニ至レリ是レ國家ノ歲出ハ年年歲歲増加スルニ反シ國家ノ歲入ハ比較的之ニ隨伴セサル所以ナリトス

國家觀念ノ一變ハ一方ニハ國家其モノノ信用ヲ鞏固ト爲スト同時ニ一方ニハ國家ノ經費ヲ著シク増加スルニ至レリ而シテ其經費ノ種目ニシテ公債ノ

第一項 金融市場ノ發達

金融市場ノ發達ハ所謂經濟界ノ進歩ヲ現實ニ公債ノ方面ヨリ觀察セルモノニシテ其發達ノ要素ハ

甲 資本ノ供給豊饒ナルコト

乙 資本ヲ運轉スル制度組織ノ發達セルコト

丙 資本ノ生産的利用ノ動念發達セルコト

ノ三點ニ據リ成立シ金融市場ノ發達ハ能ク資本ノ流通ヲ助ケ古代ノ如ク資本ノ集合離散スル機關具備セヌ又資本ヲ有スル者モ文化幼稚ニ屬シ交通發達セズ信用ノ不備ナルヨリ徒ニ之ヲ庫中ニ藏匿スルカ如キコトナク資本ハ國內ニ縱横運轉セラルルノミナラス經濟界ハ交通ノ發達ト共ニ世界列國ヲ打シテ共同ノ潮流ニ投セシメ資金ハ國際間ヲ通シテ循環セラレ倫敦市場ニ現ハルル形式ノ數ハ其數三百種ヲ超エ其取引年額亦百億ヲ昇ルニ至レリ

第二項 一國信用ノ増加

一國信用ノ増加カ公債募集上重大ナル條件タルコト復タ言フ俟タズ蓋シ往時信用ノ幼稚ナル時代ニ在リテハ短期公債モ對物擔保ヲ附セテ猶ホ此カ奏效ニ困難ヲ成セシハ前述スル所ノ如シ今日ニ在リテハ國家組織ノ一變文化ノ普及ハ公債其モノノ性質ヲモ一變シ此カ債務關係ニ於ケル權利義務ハ復タ法令ノ保障スル所ト爲リ殊ニ立憲國ニ在リテハ公債ノ募集償還ハ議會ノ承認ヲ經ルヲ例ト爲スニ至リシヲ以テ國家ノ信用益々厚キヲ加フルニ至レリ今少シク之ヲ詳述スレハ一國信用ノ要素ハ

- 甲 公債償還ノ實力アルコト
 - 乙 公債償還ノ意思アルコト
 - 丙 公債ニ關スル行政制度ノ完備セルコト
- ニ據リテ成立シ而シテ其公債償還ノ實力ハ國民ノ富榮ト財政ノ整理トニ基因シ殊ニ公債ノ償還及ヒ利子ノ支拂ニ必要ナル租稅制度宜シキヲ得ハ財政ノ整

理ニ於テ一層ノ信用ヲ増加スヘキコト論ナキナリ其他公債ニ關スル過去ノ財政歴史即チ從來募集セシ公債ノ額ノ多少及ヒ其經過ノ如何ハ亦信用ニ至大ノ影響ヲ興フルモノタリ

公債償還ノ意思ハ國家自體及ヒ國民ノ良心及ヒ名譽心ノ強弱ト主トシテ公法ノ規定如何ニ因リテ消長セラルルモノニシテ一箇人ノ場合ニハ此要素缺乏スルトキハ國家命令權ノ作用ニ由リ法制上此カ救濟手段ヲ設ケラルルモ國家ニ對シテハ外人カ自國政府ノ力ヲ假リテ國際法上ニ訴フル場合ノ外ハ殆ト法制上此カ救濟手段トシテ強制力ノ存在ヲ認ムルコトヲ得サルモノナレハ國家信用ノ債務成立ニ必須ノ要素ナルコト復タ一私人ノ場合ノ比ニアラサルナリ

此他尙ホ國民の觀念モ亦隱然公債募集ノ一條件タリ例ヘハ今内外公債ノ同時ニ募集セラルル場合ニ於テ其經費勞力危險ノ負擔等ヲ對照シ結局外國債カ多少利益大ナルヘシト思料セラルル場合モ國民的觀念ノ利己心ニ克チテ内國債ヲ選擇スルハ事實ニ於テ見ル所ニシテ殊ニ戰時等ニ在リテハ國民的觀念ヲ刺激スルコト大ナルヲ以テ他ニ有利ノ事業アルモ之ヲ捨テ又在來投下セル資本

ヲ回收シテ多少ノ比較的損害ヲ甘ンシ公債ノ募集ニ應スルモノトス彼ノ愛國ニ公債ノ如キハ此極例ヲ示スモノナリトス

國家ノ信用カ發達スルニ至リシ原由ハ前ニ一言セル國家ノ觀念ノ一變ナリ尙ホ現實ニ之ヲ國民ノ側面ヨリ説明スレハ國民ノ權義ノ保障ニ在リ極言スレハ國民ノ起債ニ應スルハ感情ニ依ルニアラス愛國心ニ出ツルモノニアラス自己ノ權義カ明カニ法規ノ保障トスル所ト爲リ債務者タル國家ハ其實自己カ監督スル共同團體ナルカ故ナリ封建制度ノ頽廢ハ地主ノ權力ヲ剝奪シテ資本家ノ全能時代ト爲リ資本家ノ權利自由カ最モ優勢ナル勢力ヲ造リ立憲政治ノ下ニ於テハ債權者タル資本家ト債務者タル國家トハ同一體ニシテ單ニ法律上ノ資格ヲ異ニスルニ過キササルニ至レリ是レ立憲政治ノ最モ早く進歩セル英國ニ於テ著シク早く公債ノ發達ヲ見ルニ至リシ所以ニシテ又眞ニ發達セル公債カ獨リ立憲政體ノ下ニ於テ之ヲ見ルヲ得ヘシト云フ所以ナリ

第四節 公債ト私債

私法上ノ契約ヲ以テ成立スル債務タル點ニ於テハ公債モ私債モ共ニ相同シ其異同ノ生スルハ其債務ノ體様ニ於テ存ス而シテ其區別ノ根本ノ基礎ハ一ニ私人經濟ト公共經濟ノ別ニ在リ換言スレバ私人經濟ハ入ルヲ計リテ出ツルヲ制スルニ反シ公共經濟ハ出ツルヲ計リテ入ルヲ制スルニ在リ私人經濟ハ常ニ收入ノ多寡益大ナランコトヲ勉メ其收入ヲ標準トシテ支出ノ程度ヲ算定シ其收入ノ一部ヲ貯蓄シテ以テ私債ヲ起スノ患ヲキコトヲ期ス公共經濟ハ常ニ國家ノ經費トシテ其必要ノ有無程度ヲ定メテ之ニ應スルノ收入ヲ算定シ唯收支ノ相適合センコトヲ期スルニ在リ故ニ支出ノ收入ニ超過スルコトヲ避クハキト共ニ收入ノ支出ニ超過スルコトモ亦等シク之ヲ避ケスンハアラス今其相異ナル點ニ付キ其重ナルモノヲ列舉スレハ左ノ如シ

第一 公債ハ其存在ヲ原則トシ私債ハ其存在ヲキヲ原則トス

公共經濟ト私人經濟ノ區別ノ大要ハ上述スル所ノ如シ隨テ私人經濟ニ在リテハ常ニ支出ヲ收入ノ一部ニ止メ常ニ餘剰ヲ貯蓄シテ以テ不時ノ需要ニ應スルノ準備ヲ爲スヲ原則トス隨テ私債ハ此カ發生ヲ以テ例外ト見ルヘキト共ニ公

コトハ生セサルナリ

開墾ヲ爲シタルトキハ地價ヲ修正スト雖モ開墾成功ノ難易ニ依リ法律ハ地價ヲ修正スル時期ヲ同フセス

(4) 開墾ニシテ十年内以ニ成功シ得ヘキモノ

(a) 届出ヲ爲シテ開墾ヲ爲シタル場合地租條例第一六條第一項第二項「十年以內ニ成功シ得ヘキ開墾ヲ爲ストキハ開墾着手ノ年ヨリ十年目ニ至リ地價ヲ修正スルモノトス但シ開墾ノ場合ニ於テ地價ヲ修正スルハ土地ノ利用變更シタルニ因ルモノナルカ故ニ着手後十年目ニ至ルモ開墾成功セサルトキハ地價ヲ修正スルコトヲ得ス若シ十年目ニ於テ土地ノ一部分成功シテ他ノ一部分未タ成功ニ至ラサルトキハ地租條例施行規則第二條ニ依リ成功シタル部分ヲ分割シテ別筆ト爲シ其地價ヲ修正スヘキモノトス

開墾着手後十年目ニ於テハ未タ成功セサリシモ十一年目以後ニ於テ成功シタルトキハ何レノ時ニ於テ地價ヲ修正スヘキヤ地租條例其他地租ニ關スル法令ニ於テハ此場合ニ付テ何等ノ規定ヲ爲サス地租條例第十六條第三項ニハ十年

以內ニ成功シ能ハサル開墾ヲ爲サントスルトキハ、繳下年期ノ許可ヲ受クヘキコトヲ定ムルカ故ニ着手後十年目ニ至リ尙ホ成功ニ至ラサルトキハ十年以內ニ成功シ能ハサル開墾ナリシコト確實ト爲リタルヲ以テ其際ニ於テ出願ヲ爲シ、繳下年期ヲ受ケサルヘカラスト言フ者アルヘシト雖モ問題ハ十年目以後ニ於テ成功シタルトキハ何レノ時ニ於テ地價ヲ修正スヘキヤト云フニ在ルカ故ニ繳下年期ヲ受クヘキモノナリト言フハ問題ノ解答ニ適切ナラス況ヤ該條項ハ「開墾ヲ爲サントスルトキ」即チ開墾着手ノ際ニ於テ適用セラルヘキ法文ニシテ本問題ノ如ク着手後年所ヲ經タル後ニ於テハ適用アルヘキモノニアラサルニ於テ「ヤ成ハ又十年以內ニ成功シ能ハサル開墾ヲ爲サントスルトキハ繳下年期ヲ受クヘキモノナルカ故ニ」繳下年期ヲ出願セス單ニ開墾ヲ爲サントスルコトヲ届出テタル場合ニ於テハ其届出テタル十年以內ニ成功スヘキ開墾ヲ爲スノ意ヲ表シタルモノト謂ハサルヘカラス果シテ然ラハ着手ヨリ十年目ニ至リ開墾成功セサルトキハ當初届出ノ效力ハ消滅シタルモノナリ故ニ尙ホ繼續シテ開墾ヲ遂行セントスルハ新ニ開墾ヲ爲サントスル者ト異ナルコトナシ隨

テ爾後ハ成功ノ時期ヲ計リ更ニ開墾ノ届出ヲ爲スカ又ハ繳下年期ノ許可ヲ出願セサルヘカラス而シテ開墾ノ届出ヲ爲シタルトキハ其年ヨリ十年目ニ至リ地價ヲ修正スヘク、繳下年期ノ許可ヲ受ケタルトキハ其年期明ノ年ニ於テ之カ修正ヲ爲スヘキモノトス若シ此手續ヲ爲ササルトキハ無届ノ開墾ト爲ルヘクシテ法律ノ定メタル制裁ヲ免ルルコトヲ得サルヘシト論スル者アラン予ハ此論ヲモ贊成スルコトヲ得ス勿論開墾ノ届出ハ論者ノ主張スル如ク十年以內ニ成功シ得ヘキ開墾ヲ爲スノ意ヲ以テ爲シタルモノト謂フコトヲ得ヘシ然レトモ着手ノ時ニ於テ成功時期ヲ豫定シテ届出ヲ爲サシムルトキハ其時期ハ豫定ニ對シテ多少ノ差違ヲ生スルコトアルヘキハ法律ノ豫期スル所ト謂ハサルヘカラ、十年以內ニ成功スヘキ開墾ヲ爲スコトヲ届出テタル場合ニ於テモ時トシテ十年以內ニ成功セサルコトアルヘキコトヲ豫期スル法律ニシテ其不成功ノ場合ニ於テハ更ニ届出又ハ出願ヲ爲スノ意アルモノトセハ必スヤ明文ヲ以テ之ヲ規定セサルカラス然ルニ開墾ニ關シテハ地租條例施行規則第十五條ハ之ニ着手セントスルトキ其成功シタルトキ又ハ之ヲ廢止シタルトキハ必ス之カ

届出ヲ爲スヘキコトヲ規定シテ届出ヲ爲スヘキ場合ヲ明ニスルニ拘ラズ十年
目ニ成功セサルカ爲メ繼續シテ之ヲ遂行ヲ勉ムル場合ニ付テハ何等ノ規定ヲ
爲サス見ルヘシ法律ノ意ハ問題ノ如キ場合ニ於テ更ニ届出又ハ出願ヲ爲サシ
ムルニ在ラサルコトヲ予ノ見ル所ヲ以テスレハ開墾ヲ爲シタル場合ニ於テハ
地價ヲ修正スヘキコト地租條例第七條規定ノ裏面ニ於テ疑ヲ容レサル所ナリ
既ニ開墾ノ場合ニ於テ地價ヲ修正スヘキモノトセハ法律ノ規定ニ依リ特ニ修
正スヘキ時期ヲ定メタル場合ノ外ハ成功ノ時ニ於テ之ヲ修正スヘキハ當然ナ
リ開墾ノ届出ヲ爲シ着手後十年以内ニ成功シタルモノ及ヒ繰下年期ノ許可ヲ
受ケタルモノニ付テハ法律ハ特ニ地價修正ノ時期ヲ定ムト雖モ問題ノ如キ場
合ニ於テハ法律ハ特ニ其時期ヲ定メス故ニ事實開墾成功シタル時ニ於テ其地
價ヲ修正スヘキモノナリト信ス

(b) 届出ヲ爲サスシテ開墾ヲ爲シタル場合地租條例第二七條 第二類地ヲ第
一類地ト爲シタルモノハ開墾成功ト雖モ其地力直テニ開墾シタル地目トシテ
ノ利用ヲ完ウスルニ至ラサルコト多シ故ニ法律ハ地力ノ稍ヤ成熟スルマテハ其

地租ヲ増加セサルカ爲メ開墾着手ヨリ九年間ハ縱令其土地ハ既ニ第一類地ト
爲ルモ其地租ハ尙ホ第二類地タリシ時ノ地價ニ依リテ之ヲ徵收スヘキモノト爲
シ以テ開墾者ノ利益ヲ圖リタリ然レトモ凡ソ法律カ特定ノ者ヲ保護シ又ハ其
利益ヲ圖ルハ其者カ法律ノ命スル條件ヲ踐行シタル場合ナラサルヘカラス開
墾ノ場合ニ於テモ亦然リ土地所有者ニシテ九年間第二類地タリトキノ地價
ニ依リテ地租ヲ徵收セラシムルノ利益ヲ享ケントセハ開墾ニ先テ之カ届出ヲ爲
シ以テ行政官廳ヲシテ一定ノ時期ノ到來シタルトキ地價ヲ修正スルヲ得ルノ
覺知ヲ有セシメサルヘカラス此手續ヲ踐行セサル土地所有者ハ法律ノ定メタ
ル利益ヲ享クルコトヲ得ス無届開墾ヲ爲シタルコト發覺シタル時現地目ニ依
リ地價ヲ修正シ原地價ニ依ル地租ト修正地價ニ依ル地租トノ間ニ増差額アル
トキハ事實開墾成功ノ年マテ遡リ其差額ヲ追徵セラシムルヲ免ルルコトヲ得ス
即チ利用變更ノ年ヨリ嚴正ニ修正地價ヲ適用シ其間ニ些ノ利益ヲモ有セシメ
サルナリ但シ法律ハ發覺ノ日ヨリ三年前以前ニ遡リ追徵ヲ爲スコトヲ許ササル
ヲ以テ成功ノ年ニシテ發覺ノ日ヨリ三年以上ヲ經過シタルトキハ其三年以上

ニ涉ル年間ニ對スル増租額ハ之ヲ追徴スルコト能ハサルモノトス其三ノ以テ
 (ロ) 開墾ニシテ十年以内ニ成功シ能ハサルモノ 十年以内ニ成功シ能ハサル
 開墾ヲ爲サントスルトキハ稅務管理局長ニ願出テ三十年以内ノ墾下年期ノ許
 可ヲ受クルコトヲ得ルモノナリ地租條例第一六條第三項地租條例施行規則第
 一四條墾下年期ノ許可ヲ受ケタルトキハ年期中ハ原地價ニ依リ地租ヲ徵收セ
 ラレ之ヲ増加セラレサルモノナリ地租條例第十六條第三項ハ墾下年期ノ許可
 ヲ受クヘシト命令的ニ規定セタルヲ以テ十年以内ニ成功スルノ見込ナキ開墾
 ヲ爲サントスル者ハ必ス之カ許可ヲ請ハサルヘカラサルカ如シト雖モ元來十
 年以内ニ成功スルヤ否ヤハ見込ヲ以テ之ヲ定ムルモノナルカ故ニ土地所有者
 カ墾下年期ヲ出願セサルトキハ之ヲ以テ十年以内ニ成功スル見込ヲ有スルモ
 ノト爲ササルヲ得サルヲ以テ該條ノ命令的規定ハ實際ニ於テハ權能の規定ナ
 ルト強テ差違アルニアラサルナリ

墾下年期ノ許可ヲ受ケタル土地ニシテ年中期ニ至リ事業尙ホ成功ニ至ラサルモ
 ノハ更ニ二十年以内ノ繼年期ヲ與ヘ之ヲ延長スルコトヲ得ルモノナリ地租條

例第一八條) 地租條例第十八條ハ新開免租年期ノ延長ニ關シテ適用セラルル
 モノニシテ予ハ新開地ニ關シテハ法律ノ所謂事業成功ニ至ラストハ埋立工事
 ノ竣成セサルコトヲ謂フニアラスシテ地力ノ成熟セサルコトヲ謂フモノナル
 コトヲ斷言セリ開墾地ニ關シテモ亦之ト同一ニ解釋シ土地ハ既ニ第一類地ノ
 形狀ヲ爲スモ其地方尙ホ成熟セサルトキハ開墾成功ニ至ラサルモノト爲シ墾下
 年期ノ延長ヲ爲スコトヲ得ルヤ予ハ此問題ニ對シテハ積極ノ答辯ヲ爲スヘキ
 モノナリト信ス何トナレハ地租條例第十八條ハ一ノ事業成功ニ至ラサルモノニ
 ナル文章ヲ以テ開墾地及ヒ新開地ノ雙方ニ關聯セシム而シテ既ニ述ヘタル如
 タ新開地ニ付テハ其意地力ノ成熟スルニ至ラサルコトヲ指稱スルニ在ルコト
 明ナリトセハ獨リ開墾地ニ付テノミ之ヲ他ノ意義ニ解スルコト能ハサルヘキ
 ヲ以テナリ人或ハ地租條例第十六條第二項及ヒ第三項中ニ用ヒラレタル「成功チ
 ル文字ヲ解シ其意義ハ單ニ第二類地カ第一類地ト爲ルコトヲ指稱スルモノナリ
 ト爲シ開墾地ニ關シテ用ヒタル成功ナル同一文字ヲハ第十六條第十八條ト
 因リテ其意義ヲ異ニスルハ法律解釋ノ當ヲ得サルモノナルコトヲ論スル者アリ

ト雖モ予ハ何故ニ第十六條第二項及ヒ第三項中ニ用ヒラレタル成功ナル文字
 ハ開墾ノ目的地トシテノ利用ヲ完ルニスルニ至ルコト即チ第一類地トシテ其地
 方稍ヤ成熟スルニ至ルコトヲ意味スルモノニアラスト解セサルヘカラサルカ
 ヲ理解スルコト能ハス予ハ第十六條ニ用ヒラレタル「成功」ナル文字ハ開墾ノ目
 的地トシテノ利用ヲ完ルニスルニ至ルコトヲ意味スルモノト解スル者ナリ故ニ
 第十八條ヲ解スルモ之ヲ以テ事業成功ニ至ラサルモノトシテ録下年期ノ繼年
 期ヲ與フルコトヲ得ルモノナリト謂フモ解釋上些ノ抵觸アリト信セサルナリ
 特ニ録下年期ナルモノハ我邦ノ地租制度ニ於テハ舊來ヨリノ慣例ニシテ而モ
 其趣旨ハ地力ノ成熟スルヲ待テテ始メテ地租ヲ增加スルニ在リタルコトハ舊
 記ニ徴シテ疑フヘカラサルコトニ屬スルカ故ニ地租條例ヲ解スルニモ地力ノ
 熟否ヲ以テ録下年期ノ延否ヲ決スヘキモノト爲スハ立法ノ精神ト甚タ違カラ
 サルヲ信スルナリ

録下年期ノ許可ヲ受ケタル土地ニシテ年期終了シタルトキハ其地價ヲ修正ス
 (地租條例第一九條地租條例第十九條ハ唯地價ヲ修正スルコトヲ定メ第十三條

ノ如ク特ニ成功ノ部分ニ對シテ之ヲ修正スルコトヲ明言セス然レトモ第十九
 條ノ場合ト雖モ成功ノ部分ニアラサレハ地價修正ヲ爲スヘカラサルハ無論ナ
 リ何トナレハ開墾ナケルハ地價ノ修正ヲ爲スヘカラサルハ第七條第十六條等
 ノ規定ニ依リ疑ヲ容ルヘカラサルヲ以テナリ若シ年期明ノ時ニ於テハ事業未
 タ成功ニ至リサリシモ繼續シテ之カ遂行ヲ力メタルヲ以テ其後ニ至リ終ニ之
 カ成功ヲ見ルニ至リタルトキハ何レノ時ニ於テ地價ヲ修正スヘキヤ十年以內
 ニ成功シ得ルノ見込ヲ以テ開墾ニ着手シタル者十一年目以後ニ於テ成功シタ
 ル場合ニ付テ既ニ論スル所アリシト同一ノ理由ニ依リ予ハ此場合ニ於テモ亦
 現實開墾ノ成功シタルトキニ於テ地價ヲ修正スヘキモノナリト信ス

(丁) 開拓ヲ爲シタルトキ

予カ茲ニ開拓ト稱スルハ官有未開地ヲ墾闢シテ耕地宅地又ハ墾田ノ如キモノ
 ト爲シ其所有權ヲ得タルヲ謂フ維新ノ後士族ノ祿制處分ヲ結了スルヤ一方ニ
 於テハ常職ナキ士族ニ產業ヲ授クルカ爲メ他ノ一方ニ於テハ荒蕪ニ委セラレ
 タル土地ノ利用ヲ爲スカ爲メ士族ヲ勸誘シテ官有未開地ノ開拓ヲ爲サシメ成

功ヲ條件トシテ無償又ハ廉價ニ其所有權ヲ付與シタリ現今ニ於テハ官有地ノ處分ハ各之ヲ規約スル法規ノ存スルアリ開拓シタル土地ヲ無償ニテ下付スルコトハ法令ノ認メタル所ナリト雖モ明治二十三年勅令第二百七十六號官有地取扱規則第七條ハ「官有地ヲ開墾セントコトヲ請フ者アルトキハ無料ニテ之ヲ貸付スヘシ但開墾成功ノ後事業者ニ於テ該地ヲ拂下ケントスルトキハ豫メ契約ニ依リテ其代價ヲ定メ置クヘシ」ト規定スルカ故ニ開拓出願者ハ開拓成功ヲ條件トシテ其土地ノ拂下ヲ受ケタルコトヲ得ルモノナリ此ノ如キ場合ニ於テ開拓成功シ土地ノ拂下ヲ受ケタルトキハ其土地ハ官有ヨリ民有ノ有租地ト爲リタルモノナルカ故ニ其地ノ現況ニ依リ地價ヲ定メ之ニ依リテ地租ノ賦課ヲ爲スヘキカ如シト雖モ新ニ未開地ヲ開拓シタル場所ハ一應ノ開拓ヲ終リ其地面ノ形狀ヲ耕宅地等ト爲スモ其地力ハ尙ホ成熟ヲ缺クコト多シ故ニ開拓者ニ於テ暫ク假ニ未開地ト看做シテ地價ヲ設定シ一定ノ年間之ニ依リテ微租シ年期満了シタル場合ニ於テ始メテ其地ノ現況ニ應ジテ地價ヲ修正シ其年ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ賦課セラレンコトヲ出願スルトキハ十年以内適宜年期ヲ定メ之ヲ

許可スルコトヲ得ルモノトス此年期モ亦法律ハ之ヲ録下年期ト稱シタリ(地租條例第一六條第四項第一九條)

開拓地ニ付テモ亦開墾地ノ如ク年期明ニ至リ事業成功ニ至ラザルトキハ更ニ二十年以内録下年期ノ延長ヲ爲スコトヲ得ルモノナリ(地租條例第一八條前ニモ述ヘタル如ク開拓地ノ所有權ヲ得ルハ開拓ノ成功スルコトヲ條件トスルカ故ニ開拓録下年期ヲ有スル土地ニシテ開拓ノ成功セザルモノアルヘキモノニアラス故ニ地租條例第十八條ノ所謂事業成功ニ至ラザルモノトハ新開地又ハ開墾地ニ付テ論シタル如ク開拓地ニ付テモ亦地力ノ成熟セザルコトヲ意味スルモノト謂ハサルヘカラス

(戊) 耕地ノ區畫形狀ヲ變更シ開墾ニ等シキ勞費ヲ要シタルトキ

地租條例第十六條第六項ハ「耕地ノ區畫若クハ形狀ヲ變更スル爲メ……開墾ニ等シキ勞費ヲ要スルモノハ本條第三項ニ準シ三十年以内ノ地價據置年期ヲ許可スルコトアルヘシ」ト規定シ其第十九條ハ「地價據置年期明……ノ時其地價ヲ……修正ス」ト規定スルカ故ニ耕地ノ區畫形狀ヲ變更シタル者多額ノ費用ヲ要シ

タルトキハ地價据置年期ノ許可ヲ出願スルコトヲ得ルナリ而シテ地價据置年期ノ許可ヲ受ケタルモノハ年期明ノ時其地價ヲ修正セラシムルモノトス地租條例第七條ハ地目變換開墾又ハ地類變換ノ場合ニアラザレハ地價ヲ修正セザルコトヲ明言ス耕地ノ區畫又ハ形狀變更ハ地目變換ニアラス何トナレハ法律ハ地目變換ノ爲メ開墾ニ等シキ勞費ヲ要スル場合ニ付テハ特ニ規定ヲ爲シ之ヲ區畫形狀ノ變更ト區別シタルヲ以テナリ又開墾又ハ地類變換ニモアラス何トナレハ耕地トハ同シク第一類地中ノ地目タル田畑ヲ指稱スル用語ナルヲ以テ其區畫形狀ノ變更ハ開墾又ハ地類變換ノ如ク全ク地類ヲ異ニスルニ至ル場合ニ關係ナキヲ以テナリ果シテ然ラハ耕地ノ區畫形狀變更トハ同一地目中ニ於テ各筆ノ區域又ハ其高低ヲ變更スルコトヲ謂フモノニシテ地租條例第七條ノミノ規定ヲ以テ言ヘハ地價ヲ修正スヘキ場合ニアラス唯其第十六條第六項及ヒ第十九條ノ特別規定アルカ爲メニ地價修正ヲ爲ササルヘカラサルノミ元來區畫形狀ノ變更ヲ爲シタルトキニ於テハ多クハ土地ノ分割又ハ合併アルモノナレヲ以テ直チニ地價ノ分配又ハ合併ヲ爲シテ其各筆ノ地價ヲ定メサルヘカラ

キルモノナリ若シ土地改良上ノ必要ヨリシテ此場合ニ於テ直チニ分合筆ノ手續ヲ爲スヲ不可ナリトセハ立法上之カ手續ヲ爲ス時期ヲ一定ノ年間後ニ定ムルコト何等ノ妨ナシ然ルニ法律ノ規定ハ茲ニ出テ多クハ土地改良ノ目的ヲ以テ遂行セラシムルモノナル區畫形狀變更ノ場合ニ於テ一定ノ年間後ハ必ス其地價ヲ修正スヘキモノト爲シタリ予ハ其意ノ在ル所ヲ知ルニ苦シムナリ然レトモ予ノ茲ニ説明セントスル所ハ立法ノ可否ニ在ラスシテ成文法ノ解釋ニ在ルカ故ニ第十六條第六項及ヒ第十九條ノ如キ明文ノ下ニ於テハ此場合モ亦地價修正ヲ爲スヘキ一ノ場合トシテ之ヲ舉クサルヲ得ス

地價据置年期ハ之ヲ延長スルヲ得ルノ規定ナキヲ以テ一タヒ付與シタル年期終了スルトキハ常ニ地價ノ修正ヲ爲スヘキモノニシテ更ニ繼年期ヲ與フルコトヲ得サルモノトス
耕地ノ區畫若クハ形狀ヲ變更スル場合ニ於テ地價据置年期ノ許可ヲ受タルニハ二箇ノ條件ヲ要ス即チ一ハ開墾ニ等シキ勞費ヲ要スルコトニシテ他ノ一ハ地價据置年期ノ許可ヲ出願スルコト是ナリ若シ耕地ノ區畫若クハ形狀ヲ變更

スル場合ニ於テ開墾ニ等シキ勞費ヲ要セサルカ若クハ之ヲ要スルモ地價據置
年期ノ許可ヲ出願セサルトキハ第十六條第六項ヲ適用スルコトヲ得ス隨テ第
十九條モ亦其適用ナキヲ以テ此場合ニ於テハ地價ノ修正ナルコトヲ生セス但
シ之カ爲メニ土地ノ分割又ハ合併ヲ爲シタルトキハ分合筆ノ場合ニ於ケル手
續ヲ爲ササルヘカラサルモノトス

土地區劃改良ノ場合ニ於テハ後ニ説明スヘキカ如ク明治三十年法律第三十九
號ヲ以テ土地所有者ノ爲メニ甚タ利益ナル規定ヲ設ケラレタルヲ以テ地租條
例第十三條第三項前段ノ規定ハ今後實際ニ適用セラルルコトハ甚タ希ナルヘ
シ

(巳) 荒地免租年期明ニ至リ他ノ地目ニ變シタルトキ又ハ低價年期明ニ至リ其
地方復舊セサルトキ

有租地ニシテ荒地ト爲リタルトキハ其利用ヲ完ウスルヲ得サルヲ以テ一定ノ
期間其地租ヲ免スルコトヲ得ヘキハ前段ニ之ヲ述ヘタリ而シテ此ノ如ク一定
ノ期間ヲ限り地租ヲ免スル所以ノモノハ期間満了ノ後ハ地目地方共ニ從前ノ

狀態ニ復スヘキコトヲ豫期スルニ因ルモノナリ然ルニ被害ノ狀況ニ因リテハ
到底從前ノ地目ニ復スルコト能ハスシテ年期明ノ時ニ於テ他ノ地目ト爲ルコ
トアリ又幸ニ年期明ノ時ニ於テ地目ハ復舊スルモ其地方ハ亦昔日ノ如クナル
コト能ハサルコトアリ前者ノ場合ニ在テハ土地ノ利用ハ全ク一變スルカ故ニ
從前ノ地價ニ依リテ地租ヲ徵收スルハ全ク實地ニ適當セス後者ノ場合ニ在リ
テハ地目ハ既ニ復舊シタルモノナルヲ以テ勉メテ地方ノ回復ヲ謀ルトキハ其
復舊スルヲ期スヘカラサルニアラス故ニ後ニ説明スヘキカ如ク法律ハ暫ク低
價年期ヲ付與シ一定ノ年間地方ニ應シテ低減シタル地租ヲ課シ其年期明ヲ待
チテ原地價ニ復スルコトヲ許シタリト雖モ場合ニ依リテハ其低價年期明ニ至ル
モ尙ホ原地力ニ復セサルコトナシトセス此ノ如キ土地ニ對シ年期満了シタル
ノ一事ヲ以テ必ス原地價ニ依リ地租ヲ徵收セサルヘカラスト爲ストキハ地租
負擔其他ノ收益ト比準ヲ得サルニ至ルヲ免レス法律ハ或地租免租年期明ニ至
リ原地目ニ復セス他ノ地目ニ變シタルモノ及ヒ低價年期明ニ至リ原地力ニ復
セサルモノニ付テハ其地ノ現況ニ應シテ地價ヲ修正シ地租ノ負擔ト土地ノ收

益トノ間ニ甚シキ不權衡ナカラシメシコトヲ期シタリ地租條例第二二條第二三條

法律ニ於テ地價ノ修正ヲ爲スヘキ場合トシテ規定スル所ハ以上掲タル所ノ如シ而シテ以上簡短ニ説明シタル所ハ其普通ノ場合ニ於テ適用セラレヘキモノナリ然ルニ土地ノ異動ナルモノハ絶エス生スル事實ナルヲ以テ地價ノ修正ヲ要スヘキ狀態ヲ生セシメタル後未タ之ヲ修正セサル時ニ於テ又ハ既ニ之ヲ修正スルモ未タ其修正地價ヲ適用セサル時ニ於テ更ニ地價修正ヲ要スヘキ狀態ヲ生セシメタル場合ニ於テハ上來述ヘタル所ハ自ラ其儘適用スルコト能ハサルヘシ何トナレハ最初ニ生セシメタル狀態ニ對シ地價ヲ修正シ又ハ修正地價ヲ適用セントスル時ハ既ニ其狀態ハ存在セサルニ至リタル時ナルヲ以テナリ故ニ此ノ如キ場合ニ於テハ自ラ之ニ適應スルノ取扱ヲ爲ササルヲ得ス少シク煩細ニ涉ルノ嫌ナシトセサルモ予ハ茲ニ其例外タルヘキ場合ヲ舉ケ其普通ノ場合ト異ナル所ヲ示サントス

(4) 地目變換又ハ地類變換後五年以內ニ於テ更ニ地目變換又ハ地類變換ヲ爲

セタルトキ地租條例施行規則第五條 例ヘハ郡村宅地ヲ畑ニ變換シタル後三年目ニ至リ更ニ之ヲ田ニ變更シ又ハ山林ヲ原野ニ變換シタル後四年目ニ於テ之ヲ收場ニ變換シ若クハ畑ヲ原野ニ變換シタル後五年目ニ至リ更ニ之ヲ山林ト爲シタル場合ノ如シ此場合ニ於テハ最初變換シタル地目トシテ利用セントシタル土地所有者ノ意思ハ再度ノ變換ニ因リテ變更シタルモノト見ルコトヲ得ヘシ換言スレハ所有者ハ其好ム所ノ利用ヲ爲サンカ爲メニ一旦試ミタル利用ハ之ヲ廢止シタルモノナリト謂フコトヲ得ヘシ故ニ地價修正ニ關シテハ最初ノ變換ヲ眼中ニ置カス再度ノ變換ノミヲ見再度ノ變換ニシテ地目變換ナルトキハ其年ヨリ五年以內ニ於テ適宜現在地目ニ對シテ地價ヲ修正シ六年目ヨリ之ニ依リテ地租ヲ徵收スヘク再度ノ變換ニシテ地類變換ナルトキハ其年ヨリ六年目ニ至リ地價ヲ修正シ之ニ依リテ地租ヲ徵收スヘキモノトス而シテ既ニ最初ノ變換ヲ以テ廢止セラレタルモノトシ之ヲ眼中ニ置クヲ要セサルモノトセハ之ニ對シタル地價ハ適用スヘキ機會ナキモノナルヲ以テ自ラ之ヲ取消ササルヘカラサルコト殆ト言フヲ埃タサル所ナリ

地租條例施行規則第五條ハ「再度ノ變換ナル語ヲ用フルヲ以テ一見同條ハ地目變換又ハ地類變換後五年以内ニ以テ唯一回ノ地目變換又ハ地類變換アリタル場合ニ於テノミ適用セラレカ如シト雖モ此ノ如キハ或文法ノ字句ニ拘泥シテ其精神ヲ理却スルモノナリ地租條例第十條ハ頗ル簡短ノ規定ニシテ數回ノ變換アリタル場合ニ之ヲ適用セントスルニハ稍ヤ疑議アルヲ免レサルヲ以テ本條ハ之カ施行ヲ完ウスルノ趣旨ヲ以テ規定セラレタルモノト謂ハサルヘカラス故ニ本條ハ一ノ變換後五年以内ニ於テ更ニ變換アリタル場合ニ於テハ其變換ノ回數ニ拘ラス常ニ適用セラレヘキモノニシテ其意義ハ土地ノ利用ヲ變更シタル場合ニ於テ之ニ對スル修正地價ヲ適用スヘキ時期ノ到達前ニ在リテ更ニ其利用ヲ變更シタルトキハ其變更ハ幾回ナルヲ問ハス前ノ變換ニ對シテハ地價ノ修正ヲ爲ナス最後ノ變換ヨリ六年目ニ至リ其當時ノ現地目ニ對スル修正地價ニ依リ地租ヲ徵收スヘキモノト爲スニ在ルモノト謂ハサルヘカラス故ニ地目變換又ハ地類變換後修正地價ヲ適用スヘキ時期ノ到達前ニ於テ地目變換又ハ地類變換ヲ爲シ其變換地ニ對ズル修正地價ヲ適用スヘキ時期ノ到達前

ニ於テ更ニ地目變換又ハ地類變換ヲ爲シタルトキハ三回目ノ變換ヨリ六年目ニ至ルマテハ第一ノ變換ヲ爲ス際ニ於ケル地價ニ依リテ地租ヲ徵收シ三回目ノ變換ヨリ六年目ニ於テ始メテ其地目ニ對スル修正地價ニ依リテ地租ヲ徵收スヘキモノナリ例ヘハ田ヲ郡村宅地ニ變換シタル後第一回目變換四年目ニ至リ之ヲ畑ニ變換シ(第二回目ノ變換其年ヨリ三年目ニ至リ更ニ之ヲ山林ニ變換シタルトキハ第三回目ノ變換山林ト爲リタル年ヨリ六年目ニ至リ山林ニ對シテ地價ヲ修正シ其年ヨリ之ニ依リテ徵收スヘキモノト爲ス故ニ此場合ニ於テハ第一回目ノ變換ヨリ計算スレハ十一年目ニ至リ始メテ修正地價ヲ適用セラレルモノナリ

(ロ) 地目變換又ハ地類變換後五年以内ニ於テ開墾ヲ爲シタルトキ

1 地目變換後五年以内ニ於テ開墾ヲ爲シタルトキ(地租條例施行規則第六條第一項) 例ヘハ山林ヲ原野ニ變換シタル後五年以内ニ於テ之ヲ開墾シテ畑ト爲シタル場合ノ如シ此場合ニ於テハ十年以内ニ成功シ得ヘキ開墾ニ付テハ開墾着手ノ年ヨリ十年目十年以内ニ成功シ能ハサル開墾ニシテ鐵下年期ノ許可ヲ受ケタルモノニ付テハ鐵下年期明ニ至リ其成功部分ノ地價ヲ修正シテ地租ヲ

徵收スヘキモノニシテ當初ノ變換ニ對シテハ地價ノ修正ヲ爲ササルモノナリ此ノ如キハ變換後五年以内ニ於テ更ニ變換ヲ爲シタル場合ニ於ケル取扱規定ト全ク其趣旨ヲ一ニスルモノナリ

地租條例施行規則第六條第一項ハ「開墾着手ノ年ヨリ十年目」ト謂フト雖モ是レ法定ノ手續ヲ踐行シテ開墾ヲ爲シタル場合ニ付テ規定セタルモノナリ若シ夫レ無届開墾ヲ爲シタル場合ニ於テハ發覺ト同時ニ地價ヲ修正シ三年以上ニ溯ラサル範圍内ニ於テ事實開墾成功シタル年ヨリ之ヲ適用スヘキハ言フ埃タツル所ナリ

2 地類變換後五年以内ニ於テ開墾ヲ爲シタルトキ地租條例施行規則第六條第二項 地類變換ナルモノハ既ニ述ヘタル如ク多ク場合ニ於テハ特ニ人力ヲ加フルコトヲ要セス第一類地ノ耕作又ハ修理ヲ等閑ニ付スルトキハ自ラ第二類地タルノ形狀ヲ呈スルニ至ルモノナルカ故ニ地類變換耕作又ハ修理ヲ怠ラタル者カ土地ノ荒廢ニ歸シタルヲ見テ第一類地トシテノ利用ヲ拋棄シタル場合ニ於テ之ヲ爲スモノナリ然ルニ一旦第二類地ニ變換スルノ決意ヲ爲シタ

ル者其未タ地價ヲ修正スルニ至ラサルニ當リ其決意ヲ翻シ再ヒ之ヲ開墾スルカ如キハ一タヒ第一類地トシテノ利用ヲ拋棄セントシタルモ土地ノ狀況第一類地トシテ利用スルニ適スルヲ以テ其適スル所ニ從ヒテ之ヲ利用スルヲ可ナリト爲シ一旦爲シタル變換ヲ取消シタルモノト謂フコトヲ得ヘシ而シテ變換ニシテ取消サルルトキハ初ヨリ變換ナカリシト同一ニ歸スルカ故ニ其開墾シタル地目カ變換前ノ地目ト同一ナルト否トニ從ヒ次ノ如キ效力ヲ生スルモノトス

a 當初ノ地目ト同一地目ト爲シタルトキ 例ヘハ畑ヲ原野ニ變換シタル後再ヒ之ヲ畑ト爲シタル場合ノ如シ此場合ニ於テハ同一地目ニシテ管テ何等ノ變換ナカリシト同一視セラルヘキカ故ニ其價ノ變動ヲ生スルコトナシ

b 當初ノ地目ト異ナリタル地目ト爲シタルトキ 例ヘハ畑ヲ原野ニ變換シタル後之ヲ郡村宅地ト爲シタル場合ノ如シ此場合ニ於テハ地類變換ハ取消シタルモノト看做サルヲ以テ畑ヲ郡村宅地ト爲シタル場合ト同一ノ取扱ヲ爲ササルヘカラス隨テ開墾ヲ爲シタル年即チ前例ニ於テ言ヘハ原野ヲ郡村宅地

ト爲シタル年ヨリ五年以内ニ於テ地價ヲ修正シ六年目ニ至リ修正地價ニ依リ其地租ヲ徵收スルモノトスルニ依リテ地租ノ徵收額ハ舊額ノ一ノ五ニ減額スルニ依リテ地租條例施行規則第八條(荒地トハ天災ニ因リ全ク土地ノ形狀ヲ變更スルモノナルカ故ニ)地目又ハ地類ヲ變換シタル後未ダ修正地價ヲ適用スルニ及ハスシテ荒地ト爲リタルトキハ土地ハ又變換後ニ於ケル地目トシテ現狀ヲ呈セザルニ至ルモノナリ故ニ變換後ニ於ケル地目トシテ地價ヲ修正シ又ハ修正地價ヲ適用セントスルニ多クノ場合ニ於テハ其地目タルノ現狀ヲ呈セザルヲ以テ事實上ノ不能ヲ見ルニアラスンハ必ス實際上ノ不公平ニ陥ルヲ免レズ是レ地租條例施行規則第八條カ此ノ如キ場合ニ於テハ變換ハ取消サレタルモノト爲シ以テ法律執行ノ圓滿ヲ謀リタル所以ナリ而シテ予ハ此規定ヲ以テ敢テ土地所有者ノ意思ニ反スルモノナリトハ信セザルナリ何トナレハ變換ノ場合ニ於テハ六年目ヨリ修正地價ニ依リ徵收セザルヘカラス荒地免租年期ノ許可アリタル場合ニ於テハ年期明ニ至ルマテハ地租ヲ徵收セザルモノナリ此二者

ハ嚴正ニ言フトキハ相容レザルモノナリ所有者ニシテ相容レザル事實ノ一ヲ希活スルハ他ノ一ヲ拋棄スルコトヲ前提トスルモノト謂ハサルヘカラス故ニ荒地免租年期ノ許可ヲ出願シタル土地所有者ハ之ヲ反面ニ於テハ變換ヲ取消スノ意思ヲ表示シタルモノト謂フモ妨ナキヲ以テナリ變換ニシテ取消サレタルモノト看ル以上ハ荒地免租年期ヲ有スル土地ノ地目ハ變換前ノ地目ナリト謂ハサルヘカラス故ニ年期明ノ時ニ於テ左ノ如キ效力ヲ生スルモノトス

a 當初ノ地目ト同一地目ニ復シタルトキ 例ヘハ畑ヲ田ニ變換シタル後五年以内ニ於テ荒地ト爲リ免租年期ノ許可ヲ受ケタルモノ年期明ノ時ニ於テ畑ト爲シタルカ如シ此場合ニ於テハ地租條例第二十條第二十一條ニ依リ原地價ニ復スルモノトス

b 當初ノ地目ト異ナリタル地目ト爲シタルトキ 例ヘハ畑ヲ田ニ變換シタル後五年以内ニ於テ荒地ト爲リ免租年期ノ許可ヲ受ケタルモノ年期明ノ時ニ於テ田ト爲シタルカ如シ此場合ニ於テ地租條例第二十二條第二十三條ニ依リ其

地ノ現況ニ依リ地價ヲ修正スヘキモノトス地租條例施行規則第八條後段ハ實ニ此趣旨ニ因リテ規定セラレタルモノナリ

(二) 開墾着手後十年以内又ハ墾下年期中ニ於テ地目變換ヲ爲シタルトキ地租條例施行規則第七條 例ヘハ原野ヲ畑ニ開墾スルノ目的ヲ以テ之ニ著手シタル後十年以内又ハ墾下年期中ニ之ヲ牧場ニ變換シタル場合ノ如シ此場合ニ於テハ所有者ハ一旦土地ヲ第一類地トシテ利用セント欲シタル中途ニシテ其意思ヲ翻シ同シク第二類地中ノ他ノ地目トシテ之ヲ利用スルニ至リタルモノナルカ故ニ最初ノ利用變更ハ之ヲ見ス最後ノ變換ノミヲ眼中ニ置キ其年ヨリ五年以内ニ於テ地價ヲ修正シ六年目ヨリ其修正地價ヲ適用スヘキモノトス地租條例施行規則第五條等六條第七條ハ其ニ同一ノ精神ヲ以テ規定セラレタルモノナリ

開墾着手後十年以内又ハ墾下年期中ハ後ニモ説明スヘキカ如ク土地ハ尙ホ第二類中ノ地目ヲ有スルカ故ニ開墾着手後十年以内又ハ墾下年期中ニ地目變換ナルコトノ生スルハ常ニ第二類地中ノ他ノ地目ニ變スル場合ニ限ルモノナリ故

三十三年度 校外生規則摘要

- 一 講義録ハ毎月各部二回發行シ滿一今年ヲ以テ卒業トス
- 一 一今年ヲ以テ完了セザルトキハ號外ヲ發ス
- 一 講義録ハ之ヲ三部ニ分ツ其發行定日左ノ如シ
 - 第一部 毎月 五日 二十日
 - 第二部 毎月 十日 廿五日
 - 第三部 毎月 十五日 三十日
- 一 月謝金ハ全部査閱、各一部四十錢トス但シ入學金ヲ要セス
- 一 校外生ハ本校講義會、討論會ニ出席傍聴スルコト及ヒ本校ノ出版ニ係ル書籍雜誌ハ特別ノ廉價ヲ以テ購求スルコトヲ得
- 一 校外生全部卒業證書ヲ有スル者ハ試験ノ上校內生三年級ニ編入セラルルコトヲ得
- 一 校外生ハ講義録中ノ疑義ニ付キ質問スルコトヲ得問題ハ一問毎ニ別紙ニ認メ且一問毎ニ返信用郵券ヲ封入スルコトヲ要ス
- 一 三ヶ月以上月謝不納ノ者ハ退學者ト看做ス
- 一 月謝ハ東京飯田町郵便支局拂和佛法律學校會計係宛トスヘシ

明治廿二年十二月九日內務省許可

明治三十三年九月六日印刷

明治三十三年九月十日發行

東京市四谷區四谷仲町三丁目三十八番地

編輯者 小田 幹 治 郎

東京市芝區西久保明舟町十一番地

印刷者 金子 鐵 五 郎

東京市芝區西久保明舟町十一番地

印刷所 金子 活 版 所

東京市麴町區富士見町六丁目十六番地

發行所 司法省 和佛法律學校

（電話番町百七十四番）